阪南市埋蔵文化財報告XⅥ

# 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ

1993年

阪南市教育委員会

# はしがき

教育委員会では、文化財を保護する立場から、種々の開発行為に伴って消えゆく運命にある埋蔵文化財を守るべく、工事着手前に緊急の発掘調査等を実施しています。今年度は、この調査件数が約50件にも達しました。昨年来「バブル経済」がはじけ、全国的には開発行為が減少しているとの事ではありますが、依然当市では増加する傾向にあります。このような調査件数の増加は、少なくともここ数年は続くものと思われます。今後とも文化財保護の立場に立って、行政を充実して行く所存です。

今回ここに報告を行いますのは、上述した調査のうち、国庫補助金事業の対象となった個人住宅等の建築に伴い実施した発掘調査によるものです。尾崎海岸遺跡他14遺跡、27地区の調査報告です。いずれも小規模で点的な調査ではありますが、それぞれに成果がありました。市内の文化財を知る上で活用していただければ幸いです。

末筆ではありますが、調査にご協力下さった土地所有者ならびに関係者に感謝いたしますと同時に、今後とも文化財の保護にご理解、ご協力をお願いいたします。

１９９３年３月

阪南市教育委員会
教育長　庄司菊太郎

# 例　　言

1．本書は阪南市教育委員会が、平成４年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。

2．調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野仁を担当者として実施した。

3．本書内に示した標高は、Ｔ.Ｐ.であり、方位は既成の地形図等を使用したものを除いて磁北である。

4．調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と、協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

5．本書の執筆・編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。

6．本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

（調査従事者）

宇沢克之、堀川武良、寺田久一、橋本康之、木下楠治、辻野　勝、佐藤竹春、和田旬世、奥恵美子、戸崎美津弘、石橋孝広、上田　聰、井上賢治、岩崎真子、大朝文剛、香川英樹、岸本栄次、反甫安秀、阿野浩忠、丹羽　徹、福田義典、宮本英美、西奈緒子

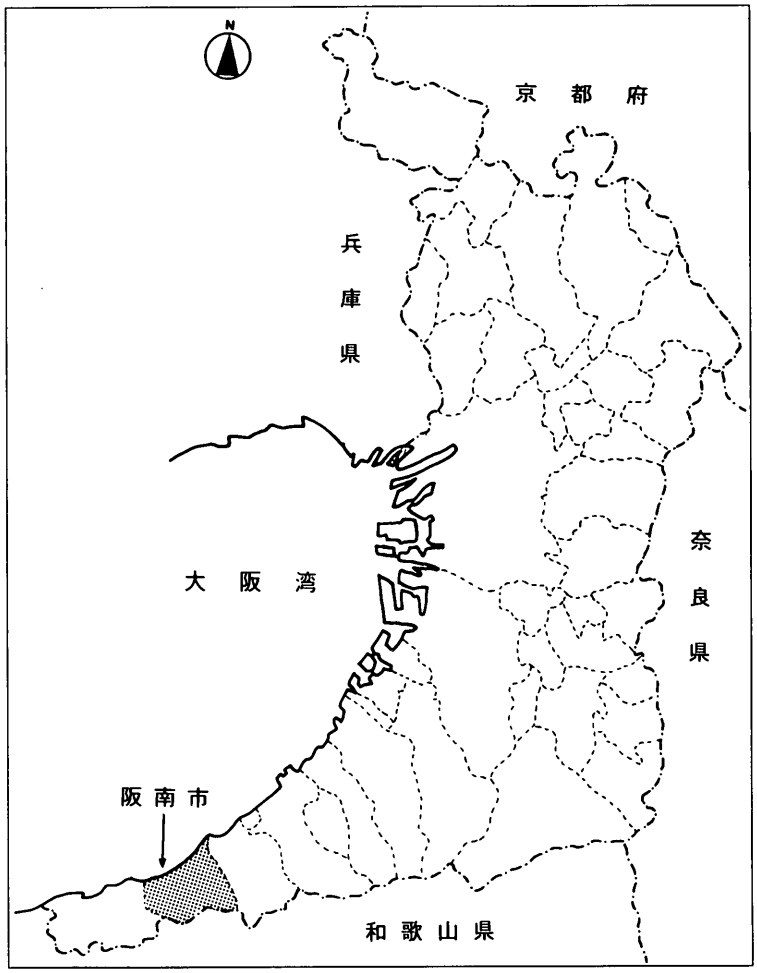
# 目　　次


| | | |
|---|---|---|
| 第１章　調査に至る経過 | | 1 |
| 第２章　歴史的環境 | | 2 |
| 第３章　調査の成果 | | |
| 第１節　尾崎海岸遺跡 | 92−１区 | 5 |
| 第２節　馬川遺跡 | 92−１区 | 6 |
| | 92−３区 | 8 |
| 第３節　下出遺跡 | 92−１区 | 9 |
| | 92−２区 | 10 |
| | 92−４区 | 13 |
| 第４節　室堂遺跡 | 92−１区 | 13 |
| 第５節　向出遺跡 | 92−１区 | 14 |
| 第６節　自然田遺跡 | 91−１区 | 16 |
| 第７節　神光寺(蓮池)遺跡 | 92−１区 | 17 |
| | 92−２区 | 18 |
| 第８節　黒田南遺跡 | 92−１区 | 22 |
| | 92−３区 | 23 |
| 第９節　鳥取北遺跡 | 92−１区 | 24 |
| 第10節　鳥取遺跡 | 92−１区 | 25 |
| 第11節　西鳥取遺跡 | 92−１区 | 26 |
| | 92−２区 | 27 |
| 第12節　箱作今池遺跡 | 91−８区 | 27 |
| | 92−１区 | 29 |
| | 92−４区 | 30 |
| | 92−６区 | 30 |
| | 92−７区 | 31 |
| | 92−８区 | 31 |
| | 92−９区 | 32 |
| | 92−10区 | 33 |
| 第13節　田山東遺跡 | 91−１区 | 33 |
| 第14節　山中渓遺跡 | 91−１区 | 34 |

# 第１章　調査に至る経過

阪南市は大阪府南部に位置し、1991年10月には市政を施行するに至った。ここ近年、大阪市のベッドタウンとして人口が急増し、現在も住宅開発は進行中である。また、1991年９月に改正された生産緑地法が開発行為に一層拍車をかけ、市内の開発工事は今年度に入ってより急増した。その結果、埋蔵文化財包蔵地内での土木工事に伴う届出件数も年々増加をたどり、1985年度には数件であった届出（通知）が1990年度は54件、91年度は65件、92年度には63件（１月末現在）を越えるまでになった。

教育委員会では、これらの届出に対し、1985年より個人住宅建築に先立ち、国庫補助をうけて発掘調査を実施している。今年度は下出遺跡、箱作今池遺跡をはじめとする14遺跡内において実施された27箇所の調査概要を報告する。




第１図　阪南市位置図

# 第２章　歴史的環境

阪南市は大阪府の南西部に位置する。市域の大部分を和泉山脈が占めて、海に向かって山地が延び、その間に段丘・丘陵部が、そして男里川をはじめとする、釈迦坊川等河川の形成する平野が拡がる。新興住宅地として開発された丘陵部を除けば、人の生活の場は段丘・丘陵部・平野部が主であり、現在周知されている埋蔵文化財包蔵地の分布も、ほとんどがこれと一致する。本年度の調査により、黒田遺跡が新たに周知された。現在、阪南市には約60数箇所の埋蔵文化財包蔵地が周知されている。

阪南市で人類の足跡を探るとすると、神光寺（蓮池）遺跡から出土の有茎尖頭器があり、縄文時代草創期まで遡ることができる（註1)。この他縄文時代としては、馬川北遺跡で後期から晩期にかけての土器が出土しているのをはじめとして、玉田山、貝掛、田山、自然田、向出等の諸遺跡で、石鏃等の石器が出土している（註1)。

弥生時代としては、神光寺（蓮池）遺跡の方形周溝墓（中期）が最も知られ（註2)、同遺跡からは、中期の自然流路やこれに伴う各種の土器、石器が出土している。この神光寺（蓮池）遺跡の北側には、黒田南、鳥取、鳥取南等の遺跡があり、これらの遺跡においても、弥生時代まで遡る遺物が見られ、この周辺において水稲栽培を行なっていた集落が存在していたことは間違いないものと思われる。一方、箱作今池遺跡においても、縄文及び弥生時代の石鏃、弥生式土器が確認されている（註4)。

古墳時代としては、中期に茶屋川の左岸台地に箱作古墳、現在の市役所の位置に皿田池古墳の存在が記録からうかがえる（註2)。後期には雨山から北西にのびた丘陵地に高田山古墳群、玉田山古墳群、貝掛の東の釈迦坊川をさかのぼったところに塚谷古墳群がみられる。しかし、現存するものは、玉田山古墳群と移築された塚谷古墳だけである。

奈良・平安時代としては、田山遺跡において製塩関係遺跡等が検出されており、製塩が当時のこの周辺地域の重要な産業であったことが裏付けられる。隣接する箱作今池遺跡においても、須恵器の坏を主体として、蛸壺、製塩土器等が出土している（註3)。また、平安時代のものとしては平野寺（長楽寺）跡が知られ、寺域等は、明確にはなっていないが、複弁蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦が採集されている。また、馬川遺跡においても、複弁蓮華文軒丸瓦が出土しており（註5)、周辺に古代寺院の存在していた可能性が伺える。

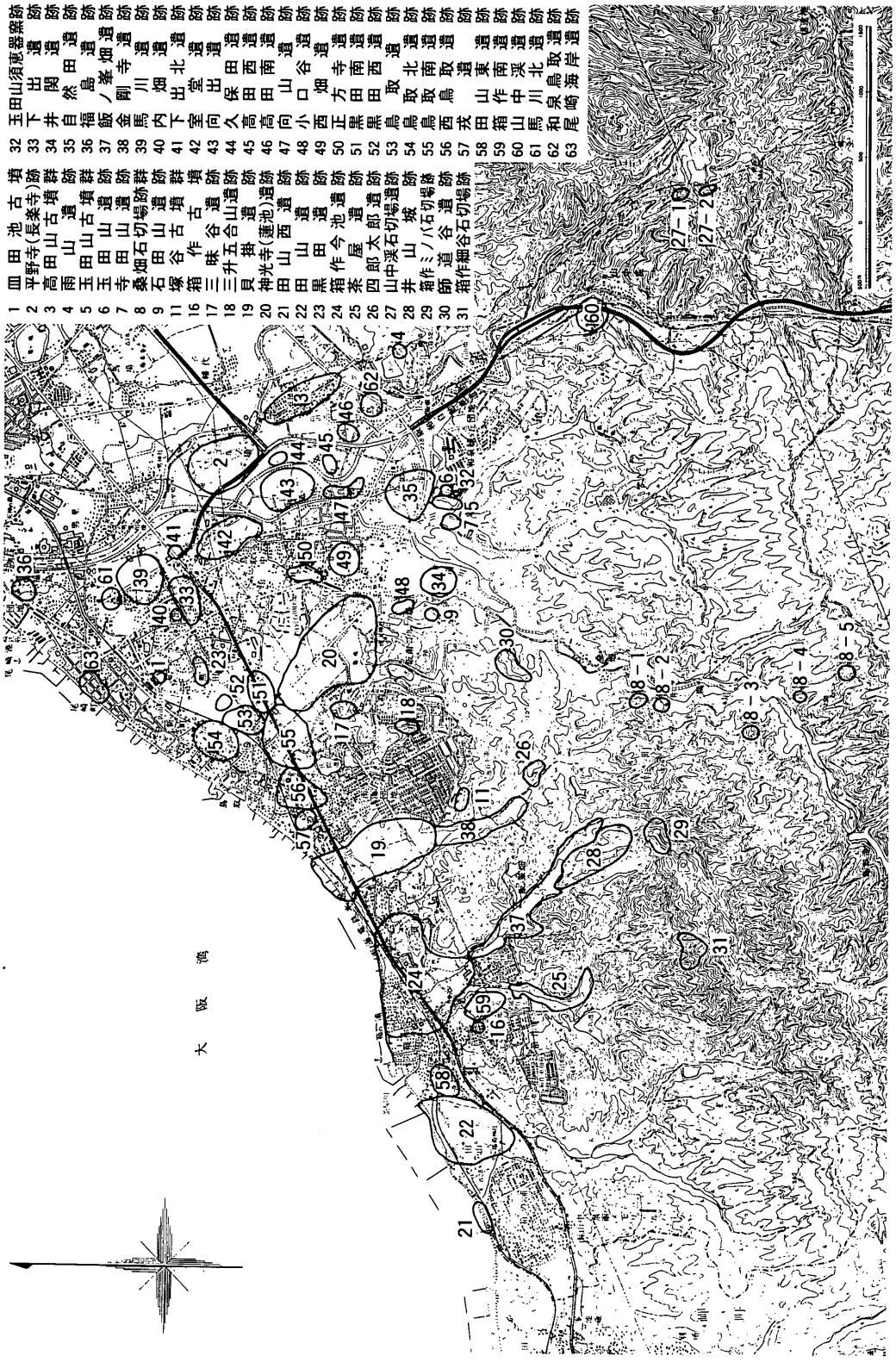
中世としては、田山遺跡や箱作今池遺跡等において、瓦器椀、瓦質土器羽釜等の生活雑器とともに、中国製の青磁碗、土師質の蛸壺・土錘等の漁撈関係遺物が大量に出土しており（註3)、当時における漁村の存在が推定されている。また、箱作地区の飯ノ峯川左岸に、南北朝期の山城である井山城が1987年に実施された発掘調査によりその実態が確認された。文献的に確認されていた国人達の合戦等の様子が、考古資料的に実証され、その全貌がほぼ明かになった（註6)。

近世としては、この泉州地域特産であった和泉砂岩の石切場跡として箱作ミノバ石切場跡、箱作細谷石切場跡が特異な遺跡として知られている（註7・8)。

これらに伴う近世集落が箱作ミノバ石切場跡にむかう飯ノ峯川上流の両岸に存在していた（註6)。

以上に述べたのが、阪南市の埋蔵文化財を中心とした歴史的環境の概要である。これまでの本市教育委員会の調査は、各所の開発事業に伴い実施される緊急発掘調査に限られている。この緊急調査も充分に行われているとは言い難く、市域の全容を捉えるにはいたっていない。こうした面的な把握をするためには、これまでの緊急発掘調査を充実させ、さらに学術的な調査をも積極的に行っていかなければならない時期に達しているのではないだろうか。

（註１）　『阪南町史』上巻　阪南町　1983年
（註２）　『神光寺跡発掘調査報告書』　阪南町教育委員会　1982年
（註３）　『箱作今池遺跡』　阪南市教育委員会　1992年
（註４）　『田山遺跡』　(財)大阪文化財センター　1983年
（註５）　『阪南市埋蔵文化財調査概要Ｖ』　阪南市教育委員会　1990年
（註６）　『井山城跡』　(財)大阪府埋蔵文化財協会　1988年
（註７）　『ミノバ石切場跡』　(財)大阪府埋蔵文化財協会　1988年
（註８）　『阪南町内埋蔵文化財』　(財)大阪府埋蔵文化財協会　1985年




第２図　阪南市内埋蔵文化財分布図

# 第３章　調査の成果

## 第１節　尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は尾崎地区の中心地に位置し、海岸線と旧街道にはさまれた東西に延びる遺跡である。1991年、現海岸線から数m内陸部に入った住宅建築の工事中に発見された。この調査では、砂地に石が約3m四方に敷き詰められ、その上に弥生時代～古墳時代の製塩土器、蛸壺等が多数散乱していた。このことから同時期における製塩、漁撈遺跡であったことが確認された。しかし、その後当遺跡の調査は行われておらず、現在に至る。

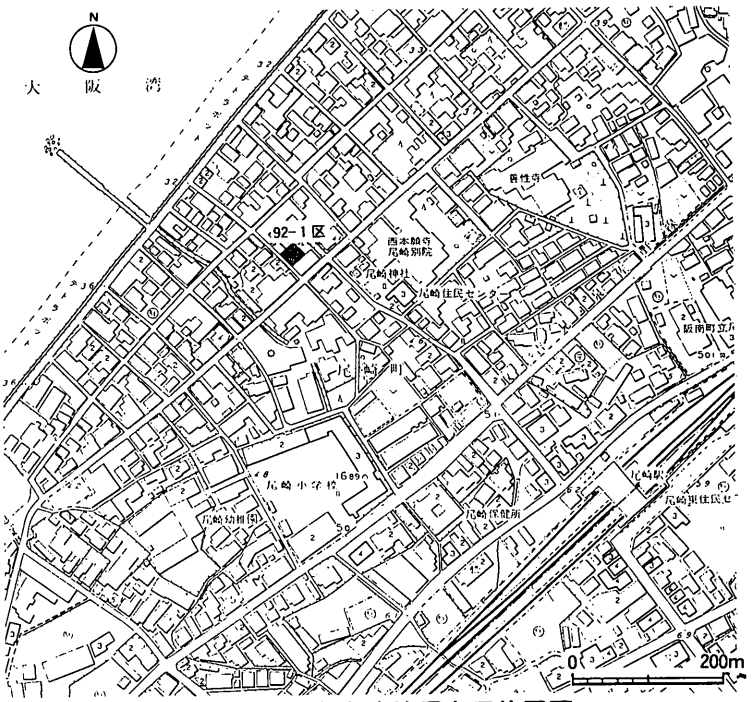
92－１区

ａ．調査の概要

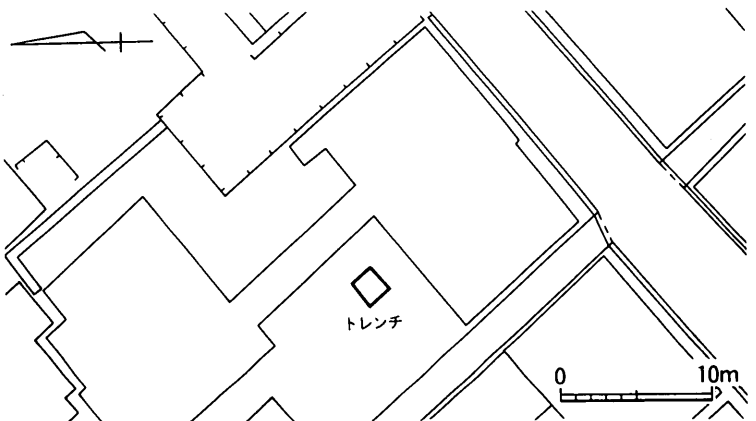
調査区は尾崎海岸遺跡のほぼ中央部に位置し、本遺跡内での２度目の調査である。調査は調査区内に2m×2mのトレンチを１箇所設定して実施した。基本的な層序は第５図のとおりで、盛土以下は砂層である。第２層淡褐灰色砂層は近世期、第３層淡褐色砂層は中世期の包含層と思われる。遺構は検出されなかった。

ｂ．遺物

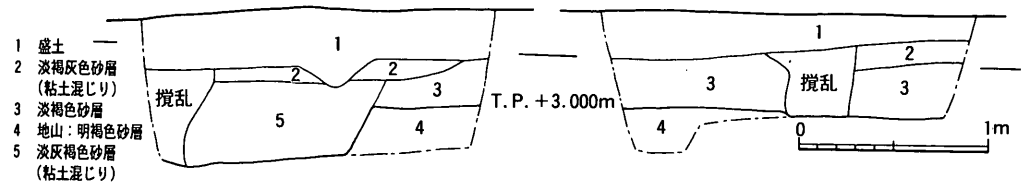
１～８は第３層淡褐色砂層、９・14は第２層淡褐灰色砂層、10～13は盛土層より出土した。１～７は土師質土器で、１～４は小皿、５は中皿。



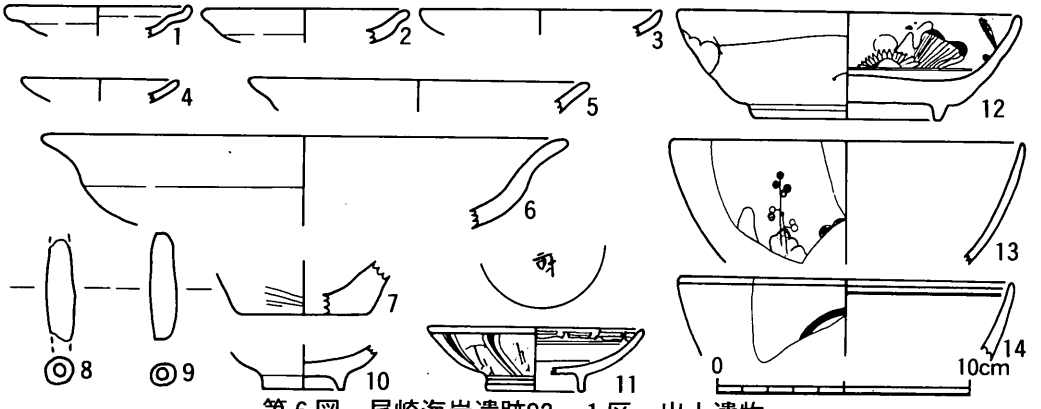

第３図　尾崎海岸遺跡調査区位置図




第４図　尾崎海岸遺跡92－１区　トレンチ位置図




第５図　尾崎海岸遺跡92－１区　トレンチ断面図

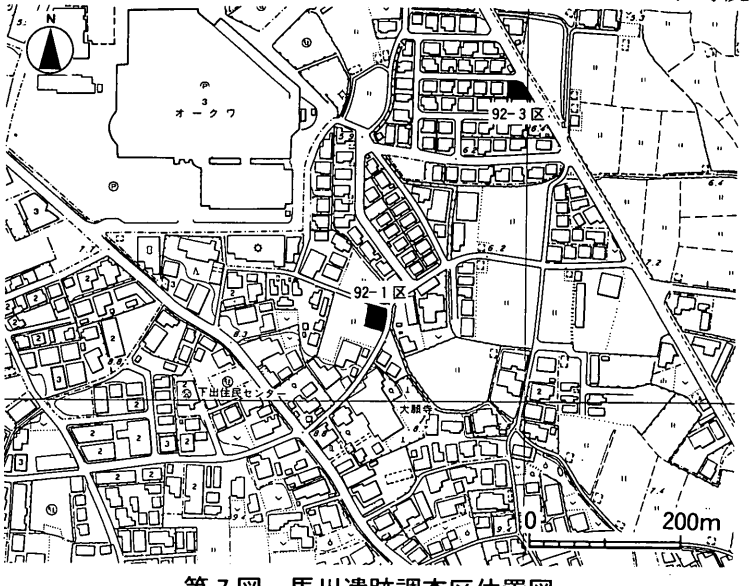



第６図　尾崎海岸遺跡92－１区　出土遺物

６・７は弥生式土器、６は高坏の坏部、７は甕の底部である。８・９は土師質の管状土錘である。10は陶器椀の底部である。11～14は染付で、うち11は小皿、12～14は碗の口縁部である。

## 第２節　馬川遺跡

馬川遺跡は、1987年度に実施した分布調査により周知された男里川左岸に拡がる遺跡である。同河川の右岸には、縄文時代以降の遺跡として知られている男里遺跡が、本遺跡の北側には、縄文時代晩期～弥生時代中期頃の流路が検出されている馬川北遺跡がある。既往の調査では、明確な時期の遺構は検出されていないが、寺院が存在していたとの伝承が残る付近の調査で、複弁蓮華文軒丸瓦が出土している。




第７図　馬川遺跡調査区位置図

92－１区

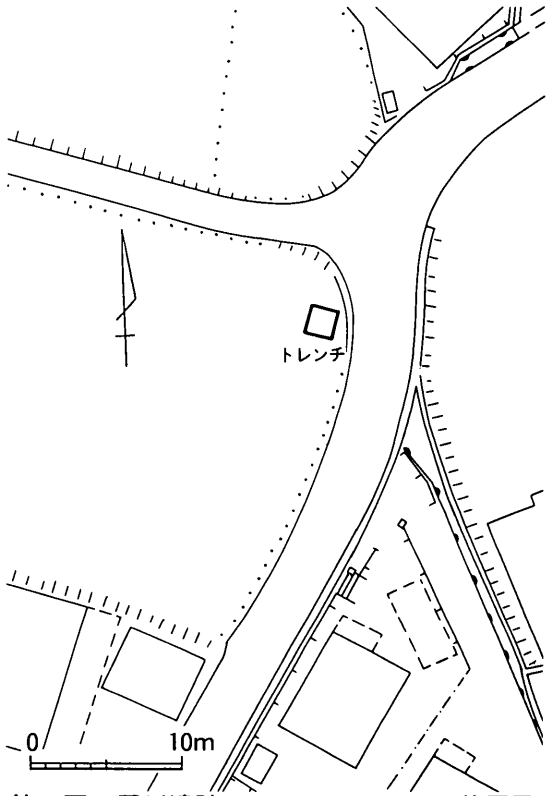
ａ．調査の概要

調査地は、馬川遺跡の西端部に位置する。対象地内に2m×2mのトレンチを設定し調査を実施した。基本

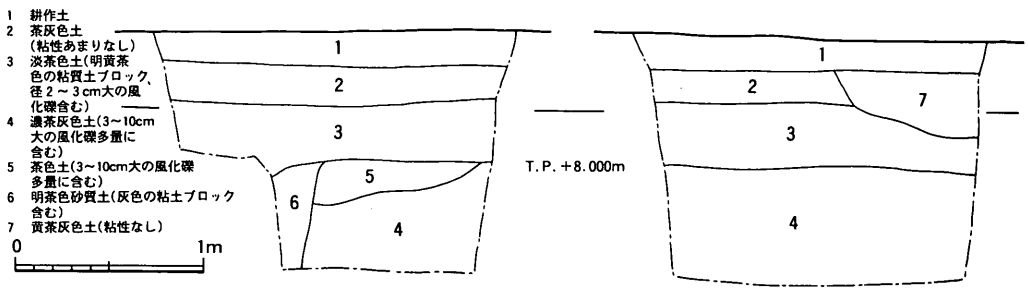
的な層序は第９図に示したとおりであるが、第２～４層は、1.2m以上の堆積が見られた。その堆積状態から人為的な整地層と思われる。これらの層からは、土師質土器甕、瓦質土器羽釜、瓦等、中世末期～近世初期頃の所産と思われる遺物が出土した。このことから、同時期に整地されたものと考えられる。遺構は検出されなかった。

b．遺物

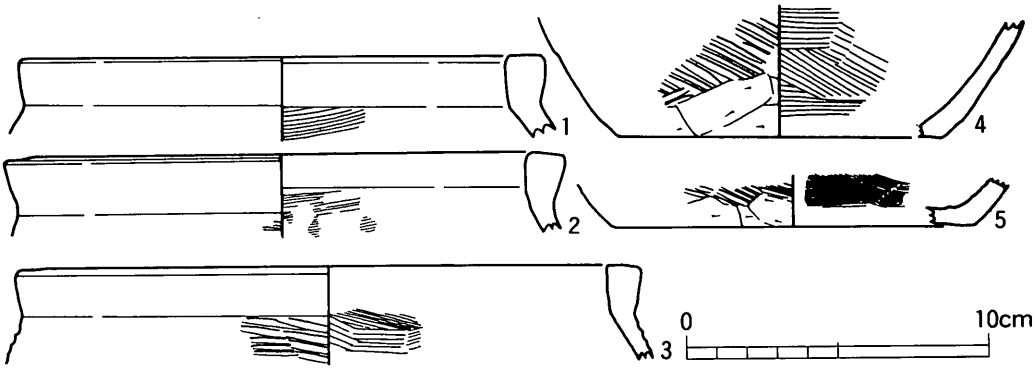
１～５は湊焼の甕である。小片のため、口径は推定である。６～８は瓦質土器羽釜である。いずれも復元口径は、17cm前後で、形式からもほぼ同時期のものと推定される。９は土師質の管状土錘、10は瓦質の有孔土錘である。11および12は陶器の高台部分で、いずれも器種は椀。11は瀬戸美濃焼と思われる。この湊焼甕と瓦質土器羽釜は、図化し得たもの以外にも多数出土している。



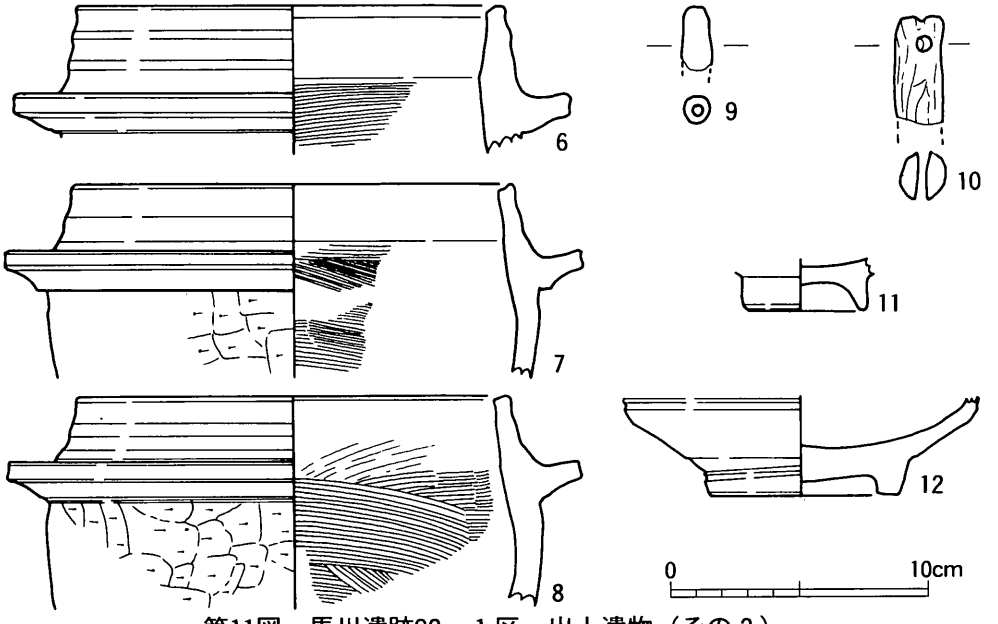

第８図　馬川遺跡92－１区　トレンチ位置図




第９図　馬川遺跡92－１区　トレンチ断面図




第10図　馬川遺跡92－１区　出土遺物（その１）




第11図　馬川遺跡92－１区　出土遺物（その２）

92－３区

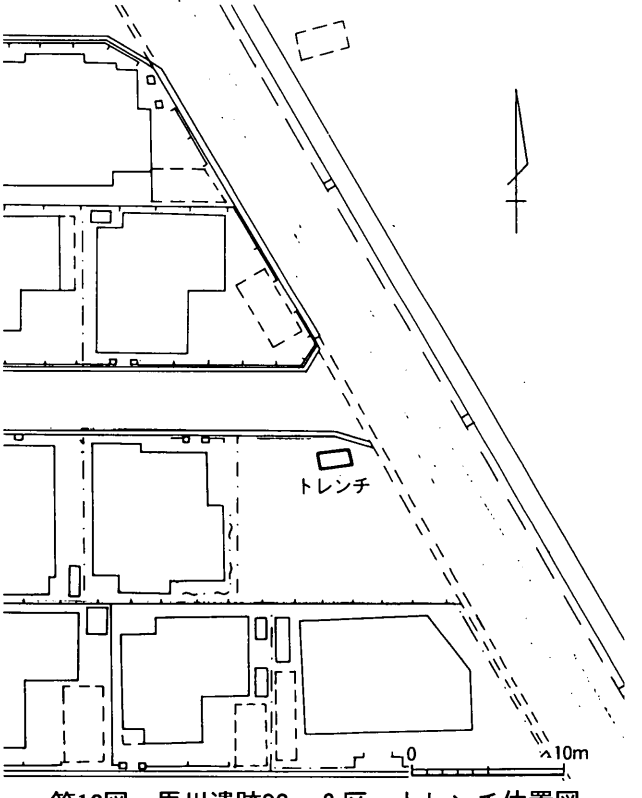
ａ．調査の概要

調査区は馬川遺跡の北端に位置し、馬川北遺跡に近接する。調査は調査区内に2m×1mのトレンチを１箇所設定して実施した。基本的な層序は第13図のとおりである。第３層から土師器、須恵器、第４層から土師器が出土した。第５層から遺物は出土しなかったがしまりの悪い層で、第６層礫層が地山と考えられる。第４層上面で溝もしくは土坑と思われる遺構の一部を検出した。なお、図化できる遺物は出土しなかった。

ｂ．遺構

－土坑－

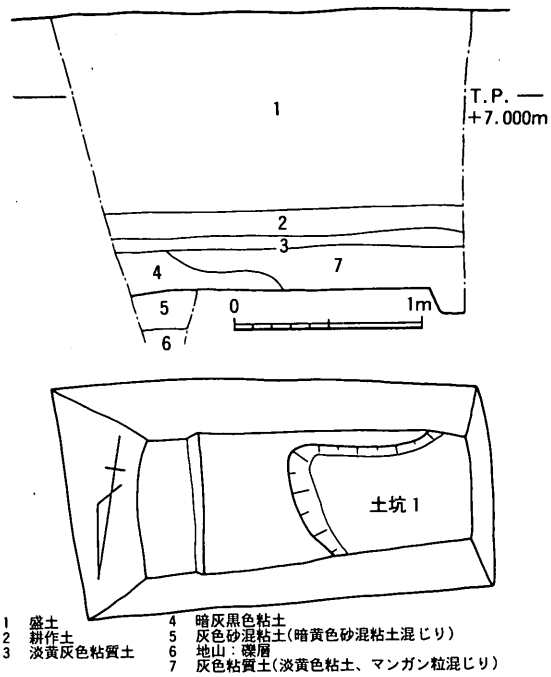
幅0.6m以上、深さ0.35m以上を呈する。埋土内から遺物は出土しなかった。




第12図　馬川遺跡92－３区　トレンチ位置図

## 第３節　下出遺跡

下出遺跡は、本市のほぼ中央部、馬川遺跡南西部に位置し、旧来の下出地区の集落とほぼ一致している。1991年度の民間開発工事に先立つ確認調査により発見、周知された遺跡である。その調査では、土坑墓をはじめピット等が検出された。これらの遺構には、瓦器椀を中心とする中世期の遺物が伴っていた。阪南市域における中世期の集落と墳墓の様相を知る上で重要な遺跡とされている。



第13図　馬川遺跡92－３区　トレンチ平面図・南側断面図

92－１区

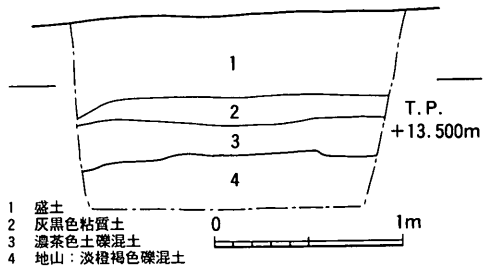
ａ．調査の概要

本調査区は、下出遺跡の南東部、先述した土坑墓等が検出されている調査区（90－１区）の北東約60mに位置する。調査は、調査区内に2m×2mのトレンチを１箇所設定して実施した。層序は、第１層近年の盛土（約0.5m）、第２層灰黒色粘質土、第３層濃茶色礫混土、第４層淡橙褐色礫混土（無遺物層）であった。遺物は、第２・３層から土師器、陶器、瓦を検出した。

第14図　下出遺跡92－１区　トレンチ位置図

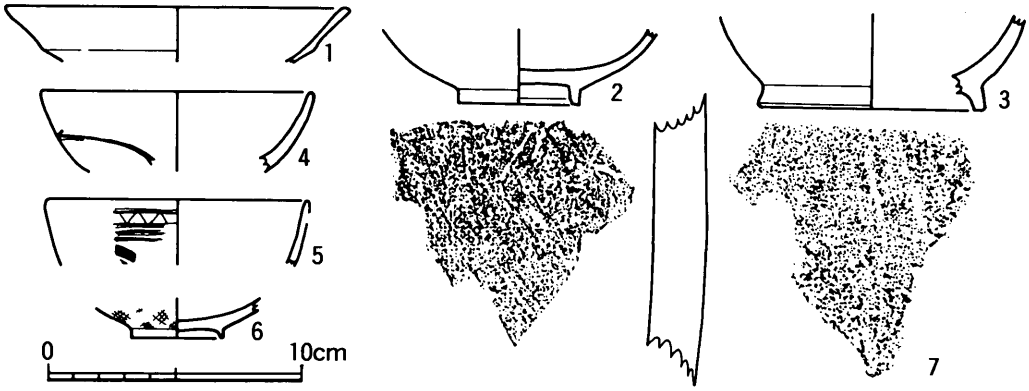
ｂ．遺物

１．瓦器椀の口縁部。２．京焼あるいは京焼風伊万里と思われる碗の高台部である。３．陶器の高台部で、椀あるいは壺であろう。４．伊万里の染付で、碗と



第15図　下出遺跡92－１区　トレンチ西側断面図

思われる。5．染付碗の口縁部である。6．同じく染付碗の高台部である。7．平瓦である。凹面に布目圧痕が、凸面に離れ砂がみられる。中世のものであろう。

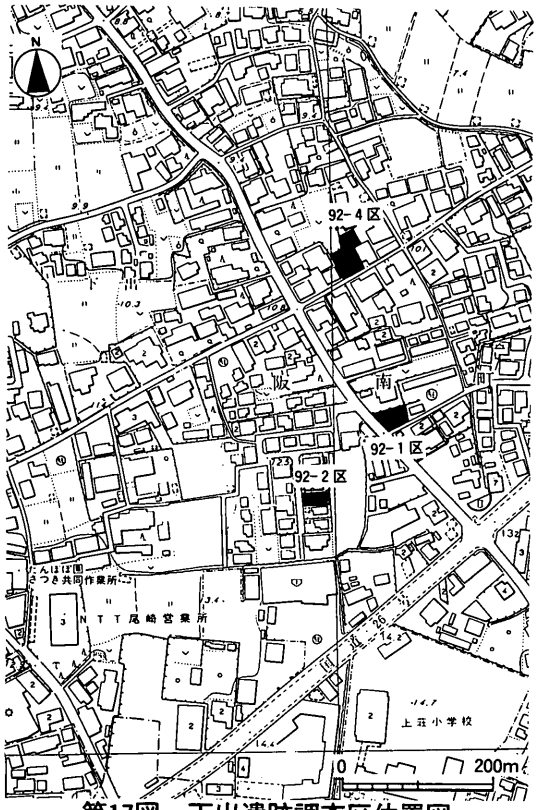



第16図　下出遺跡92－１区　出土遺物

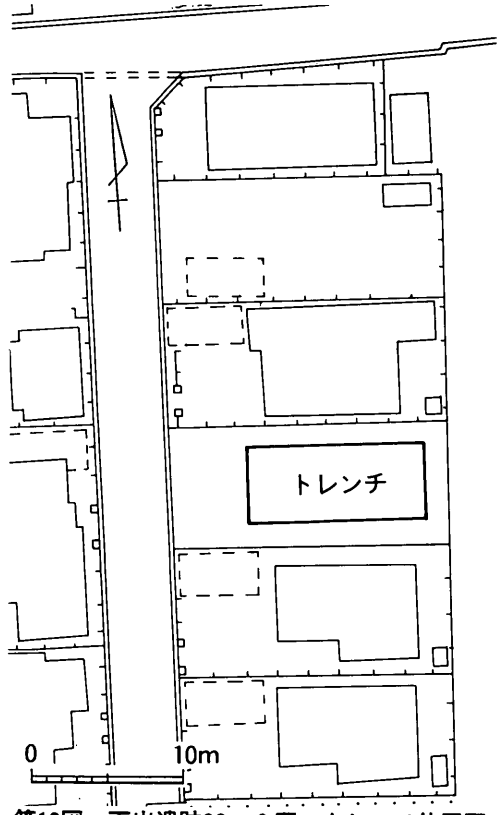
92－２区

ａ．調査の概要

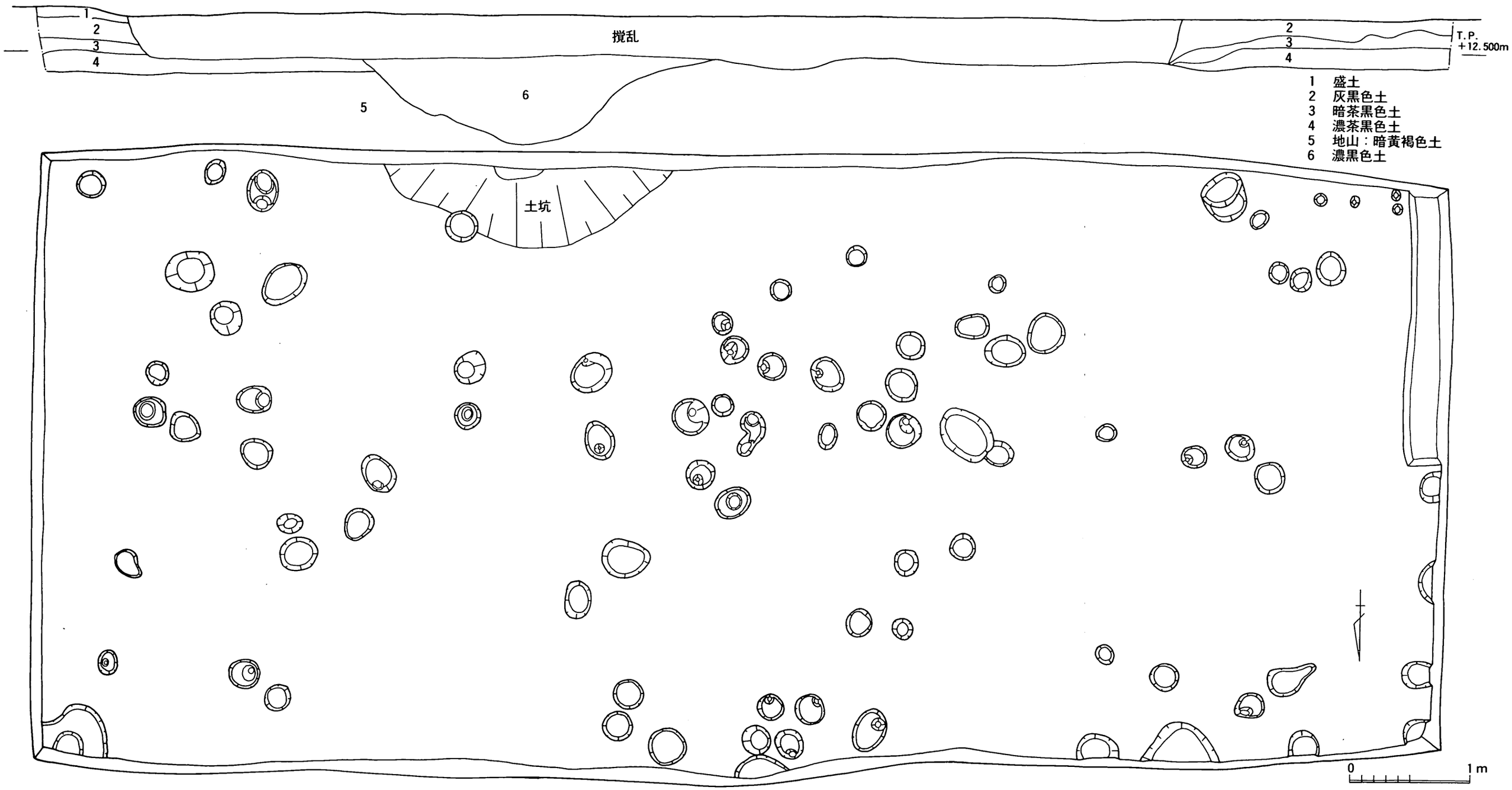
本調査区は、下出遺跡の南東部に位置する。先述した90－１区に隣接している。このため調査着手前より中世期の遺構、遺物等が検出されることが予想された。調査は、調査区内に5m×11mのトレンチを設定して実施した。




第17図　下出遺跡調査区位置図




第18図　下出遺跡92－２区　トレンチ位置図




第19図　下出遺跡92－２区　平面図・南側断面図

層序は第１層近年の盛土、第２層灰黒色土、第３層暗茶黒色土、第４層濃茶黒色土、第５層暗黄褐色土（無遺物層）である。第３・４層から、土師器、瓦器、瓦が出土した。遺構は土坑とピットを検出した。

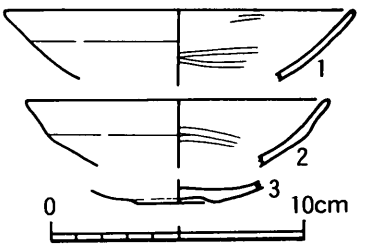
ｂ．遺構

－土坑－

第５層上面で径2.5m以上、深さ0.7m以上を呈する。埋土は、濃黒色土であった。遺物は含まれていなかった。

－ピット－

第５・６層上面で約80のピットを検出した。径約30～40cmのピットであった。相当数のピットを検出したが、区画された直線上に並ぶものがなく、建物の存在に直接結びつけることはできなかった。



第20図　下出遺跡92－２区　出土遺物

ｃ．遺物

１～３はいずれも瓦器椀である。ほぼ同じ時期のものと考えられる。

92－４区

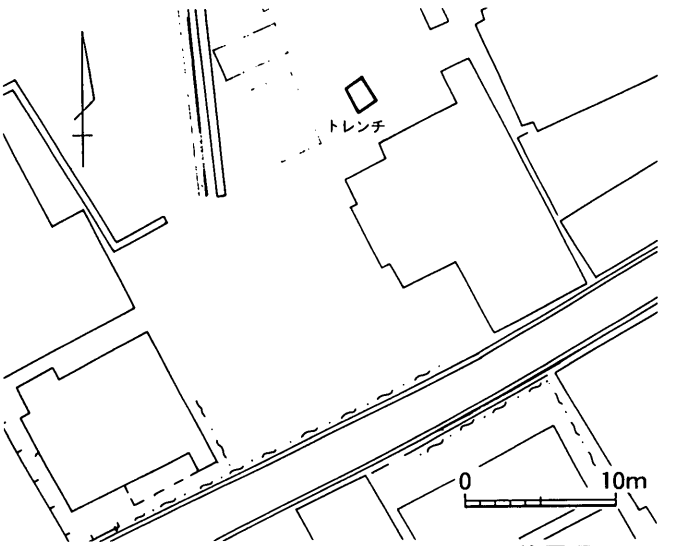
ａ．調査の概要

下出遺跡の北東部に位置する。調査は調査区内に2m×1.5mのトレンチを１箇所設定して実施した。

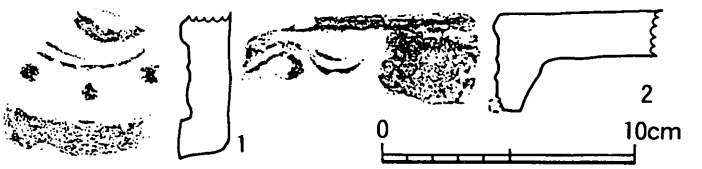
層序は第23図のとおりで、第１・２層から瓦、土師器、陶磁器が、第３層直上で陶器が出土した。遺構は検出されなかった。

ｂ．遺物

１は巴文軒丸瓦、２は均整唐草文軒平瓦である。ともに近世期のものである。



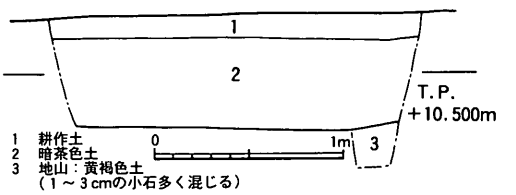
第21図　下出遺跡92－４区　トレンチ位置図



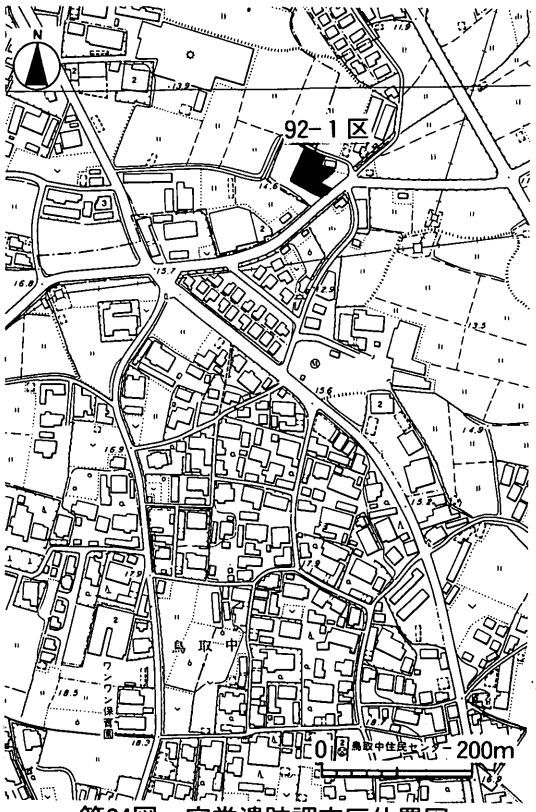
第22図　下出遺跡92－４区　出土遺物

## 第４節　室堂遺跡

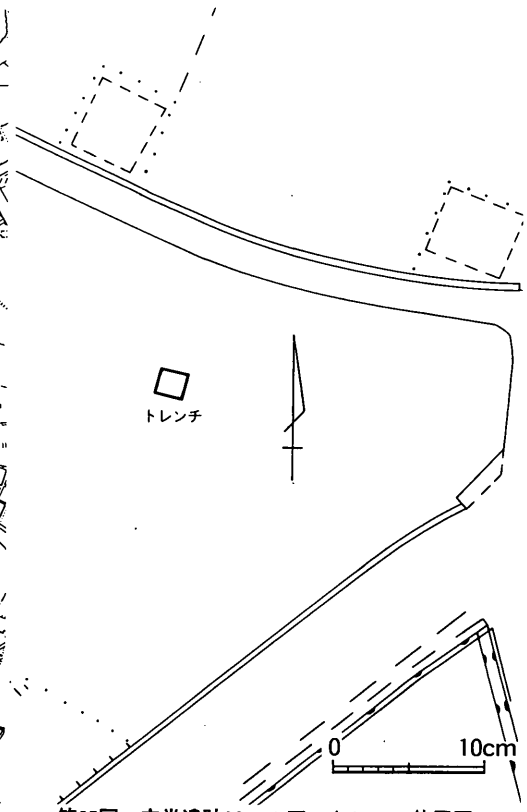
室堂遺跡は、阪南市の西部、男里川水系小川の左岸に位置する。同遺跡内では、これまでに数件の調査例があるが、個人住宅建築等の小規模な調査に留まり、明確な遺構、遺物包含層の



第23図　下出遺跡92－４区　トレンチ東側断面図




第24図　室堂遺跡調査区位置図



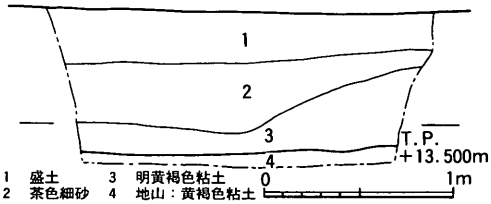

第25図　室堂遺跡92－1区　トレンチ位置図

確認はされていない。今後の調査が待たれる。

92－1区

調査の概要

本調査区は、室堂遺跡のほぼ中央部に位置する。調査区内に2m×2mのトレンチを設定し、調査を実施した。第1層が近年の盛土層で、以下に第2層茶色細砂、第3層明黄褐色粘土、第4層黄褐色粘土を確認した。第2・3層から土師質土器の細片が出土した。第4層は無遺物層であった。

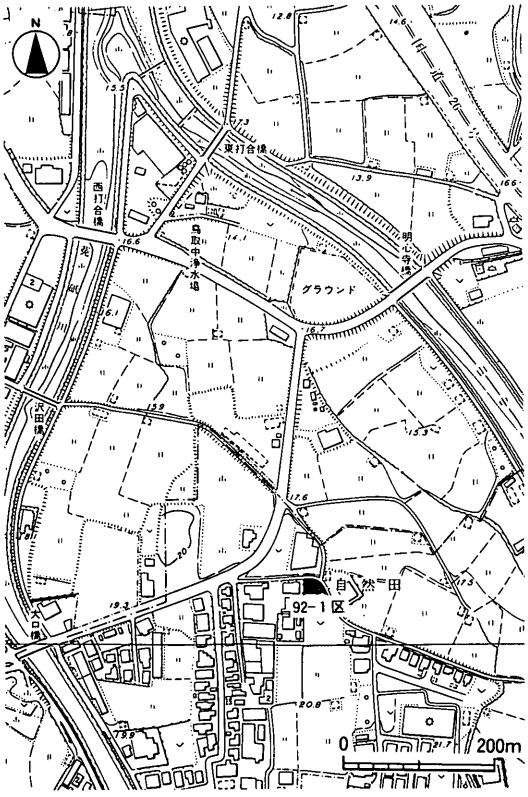



第26図　室堂遺跡92－1区　トレンチ北側断面図

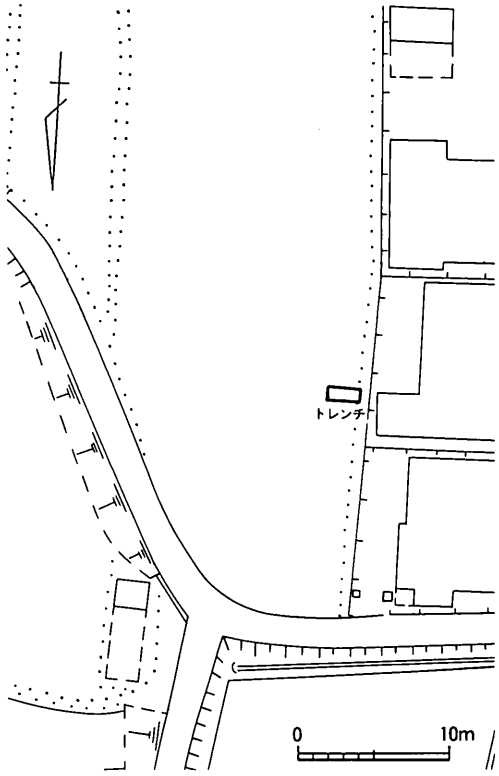
なお、出土した土師質土器は、細片のため図化し得なかった。

## 第5節　向出遺跡

向出遺跡は、男里川支流の兎砥川と山中川に囲まれた段丘上に位置する。分布調査では、縄文時代の晩期と思われる土器片やサヌカイト製石鏃等が多く採集されている。1988年度の民間開発工事に伴う確認調査により周知された遺跡である。この88年の調査では、溝等の遺構が検出され、黒色土器、土師質土器等の遺物が出土している。




第27図　向出遺跡調査区位置図




第28図　向出遺跡92－1区　トレンチ位置図

92－1区

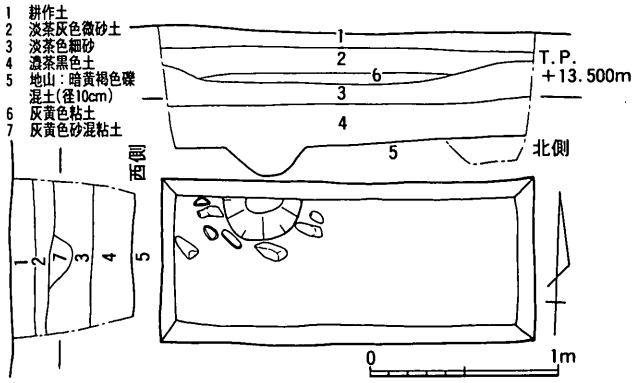
a．調査の概要

本調査地は、向出遺跡の北側に位置する。調査区内南端に1m×2mのトレンチを設定して調査を行った。層序は第1層耕作土、第2層淡茶灰色微砂土、第3層淡茶色細砂、第4層濃茶黒色土、第5層暗黄褐色礫混土（無遺物層）であった。遺構は、トレンチの北東で土坑を検出した。第2層・第3層で土師器、須恵器、瓦器を検出した。またこの他に土師器、サヌカイトの剝片を採集した。

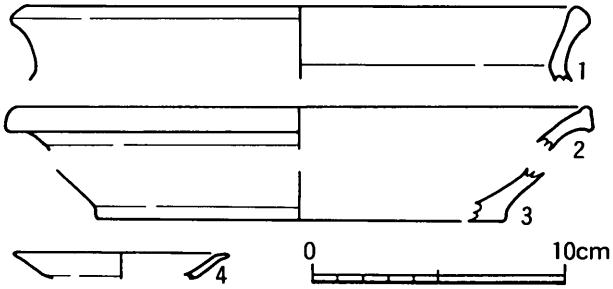
b．遺構

－土坑－

トレンチの北東部で検出した。




第29図　向出遺跡92－1区　トレンチ平面図・断面図




第30図　向出遺跡92－1区　出土遺物

径約0.4m、深さ0.15mを呈し、埋土は第４層濃茶黒色土で、埋土内から須恵器の壺の一部が出土した。

ｃ．遺物

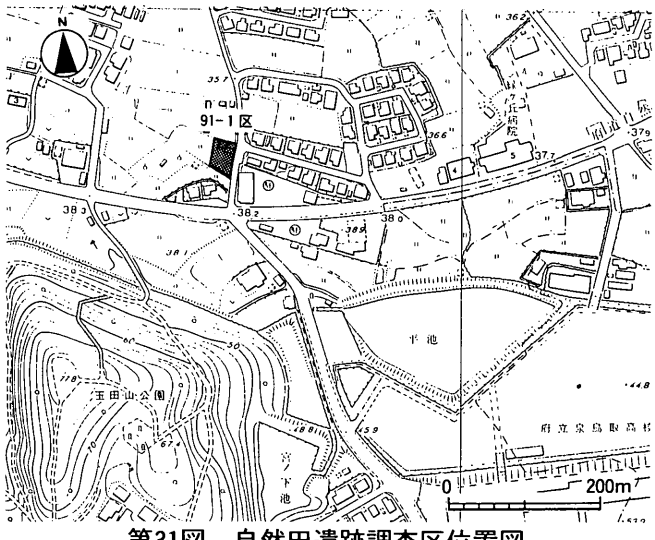
遺物包含層から、前述のように土師器片を検出している。このうち図化し得たものは４点であった。

１および２はともに土師質土器の口縁部で甕と思われる。３は土師質土器で、壺の底部であろう。４は土師質土器の小皿である。

この他、図化できなかったが、弥生式土器の破片が出土している。

## 第６節　自然田遺跡

自然田遺跡は、1986年に民間開発に伴う事前の調査によって確認された遺跡である。本遺跡の南側には、玉田山古墳群が存在する玉田山がある。この玉田山等を形成している台地の前面に拡がる平野部に位置する。サヌカイトのナイフ形石器が出土しているのをはじめ、これまでの調査では縄文時代から近世期にかけての遺物や、中世期の溝や流路、近世期の溝などが検出されている。

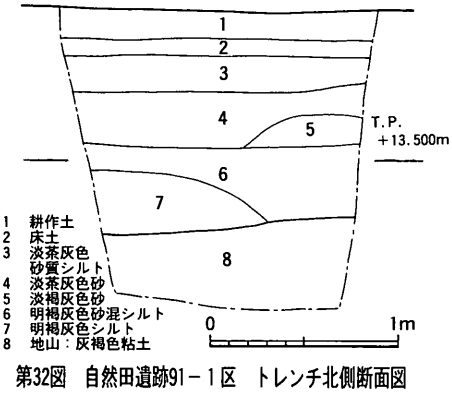


第31図　自然田遺跡調査区位置図

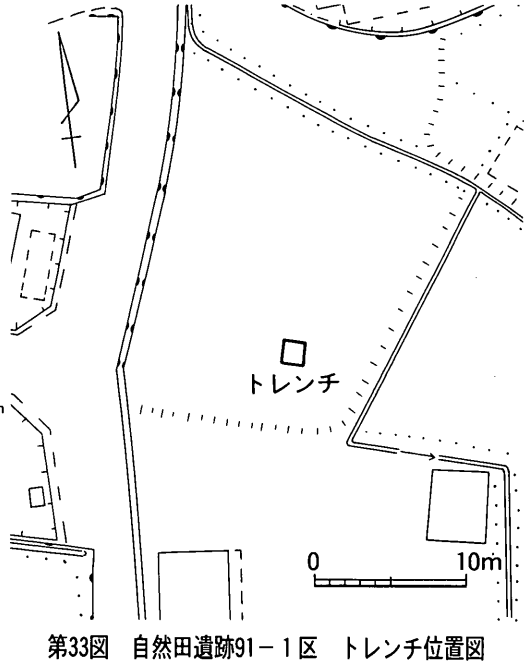
91－１区

調査の概要

調査区は自然田遺跡の南東部に位置する。調査は、調査区内に2m×2mのトレンチを１箇所設定して実施した。



第32図　自然田遺跡91－１区　トレンチ北側断面図

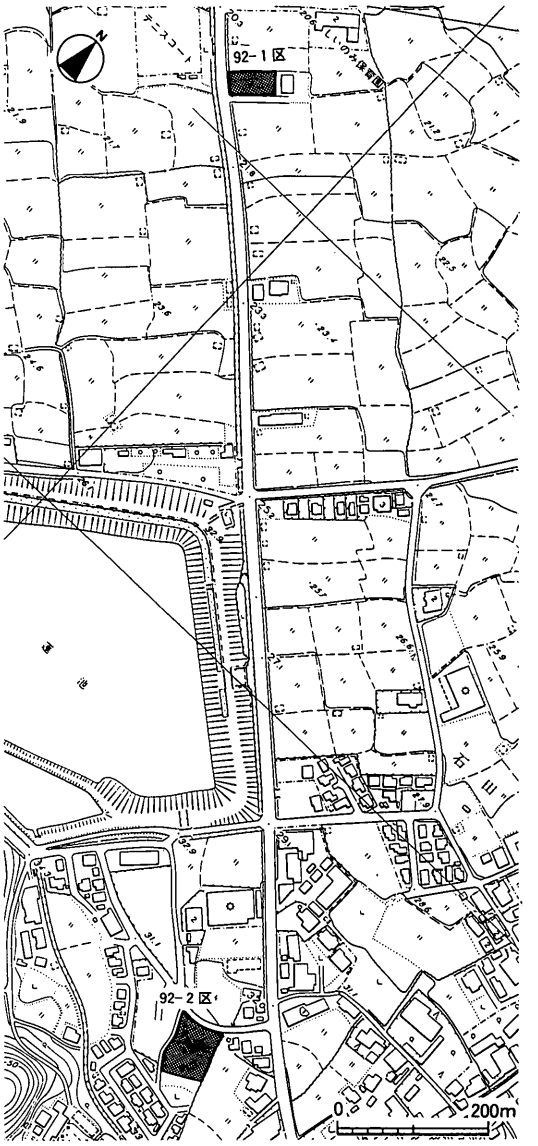


第33図　自然田遺跡91－１区　トレンチ位置図

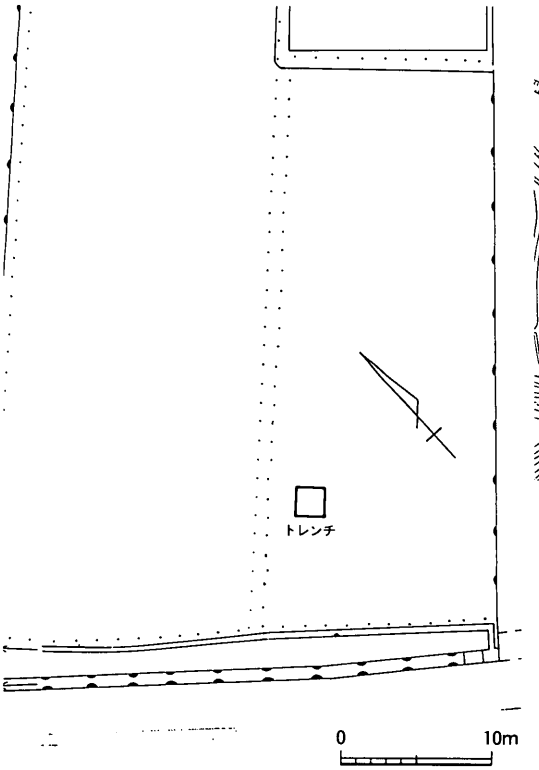
層序は第32図のとおりで、第４層から土師器が出土したが、器種などは不明である。第５層から第７層は遺物は出土しなかったが、しまりの悪い層で第８層が地山と思われる。遺構は検出されなかった。

## 第７節　神光寺（蓮池）遺跡

神光寺（蓮池）遺跡は、阪南市の中央部に位置し、以前より縄文時代草創期から近世期にかけての総合的な遺跡として周知されている。縄文時代草創期の有茎尖頭器が採取されているほか、弥生時代中期の方形周溝墓や自然流路が検出され、近隣に同時代の集落の存在が推定されている。また、遺跡南端部には式内社波太神社があり、その神宮寺である神光寺が明治時代の初めまで存在していたことも知られている。これまでの調査では弥生時代から近世期にかけての遺物や遺構が検出しており、当市では性格が把握できる数少ない遺跡のひとつである。




第34図　神光寺(蓮池)遺跡調査区位置図




第35図　神光寺(蓮池)遺跡92－１区　トレンチ位置図

92－１区

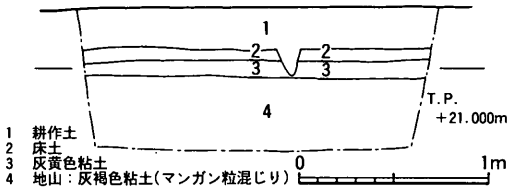
a．調査の概要

調査区は、神光寺（蓮池）遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内に2m×2mのトレンチを１箇所設定して実施した。層序は耕作土、床土、灰黄色粘土、灰褐色粘土（無遺物層）の４層であ

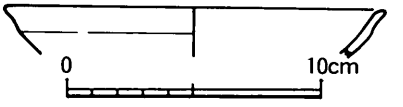
る。灰黄色粘土からは土師器、瓦器、陶器などが出土したが、遺構は検出されなかった。

b．遺物

瓦器椀の口縁部である。磨滅が激しくヘラミガキなどは残っていない。




第36図　神光寺(蓮池)遺跡92－1区　トレンチ東側断面図




第37図　神光寺(蓮池)遺跡92－1区　出土遺物

92－2区

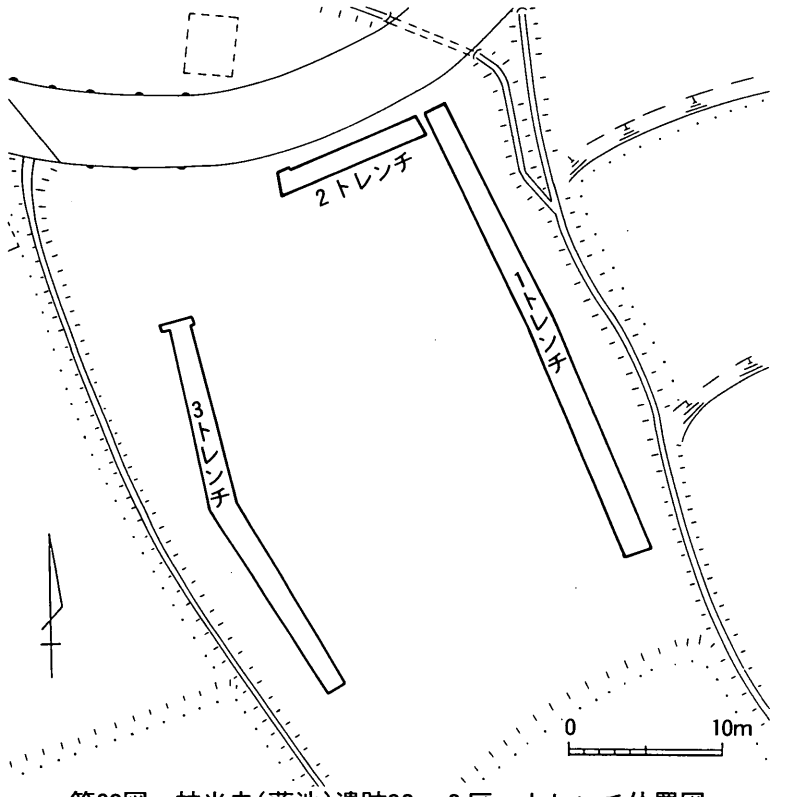
a．調査の概要

調査区は神光寺（蓮池）遺跡の南部に位置し、波太神社の北部にあたる。調査は調査区内に3箇所のトレンチを設定して実施した。

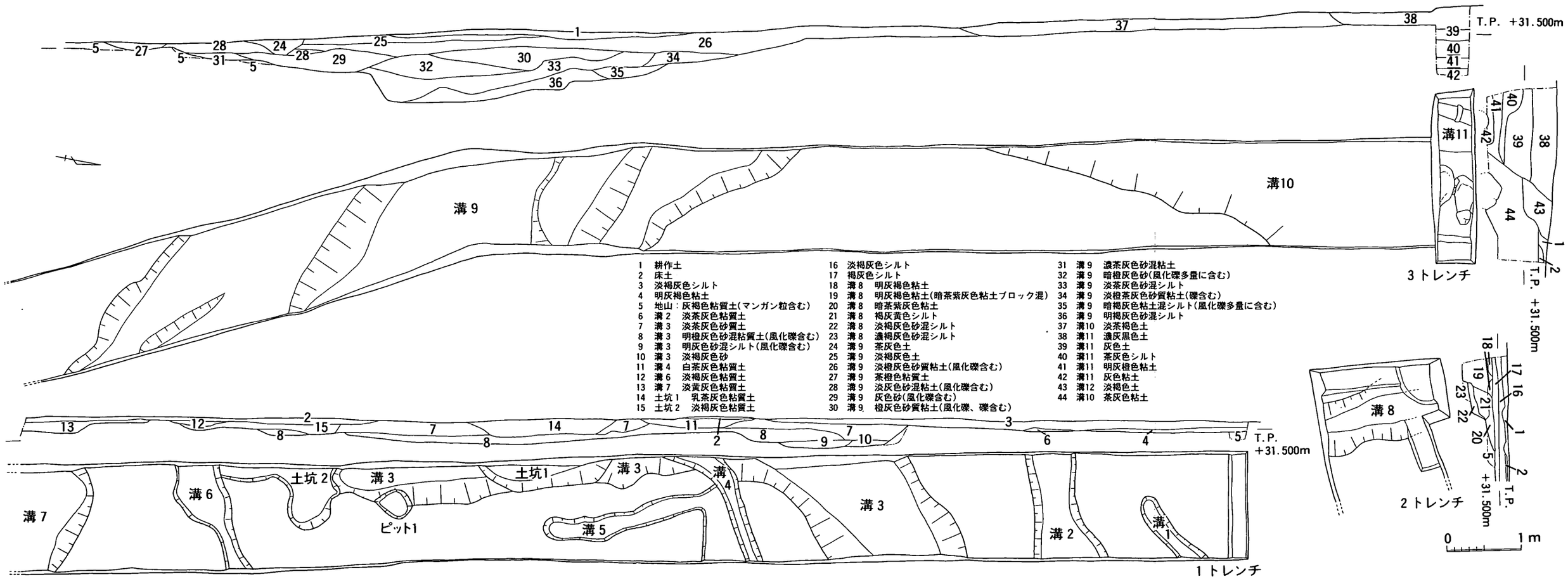
1トレンチは幅1.5m、長さ33mである。基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層淡褐灰色シルト、第4層明褐灰色粘土、第5層褐灰色粘土（無遺物層）であるが、耕作土と床土の大半は既に除去されていた。南側は耕作土と床土を除去すると地山で、遺構は確認できなかったが、北側では溝7、土坑2、ピット1が検出された。淡褐灰色シルト層から土師器、瓦器、瓦質土器、陶器などが、地山直上からは弥生式土器が出土した。

2トレンチは幅1.5m、長さ10mである。基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層淡褐灰色シルト、第4層褐灰色シルト、第5層明灰褐色粘土、第6層褐灰色粘土（無遺物層）である。第3・4層からサヌカイト、土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、青磁、瓦等が出土した。遺構は西側で溝1、土坑1が検出された。

3トレンチは、幅1.5m、長さ27mである。基本層序は第1層耕作土、第2層褐灰色粘土（無遺物層）である。耕作土、床土の大半は既に除去されていた。南側は1トレンチと同様に、耕作土と床土を除去すると地山で、遺構は確認できなかった。中央部で幅8m、深




第38図　神光寺(蓮池)遺跡92－2区　トレンチ位置図




1 耕作土
2 床土
3 淡褐灰色シルト
4 明灰褐色粘土
5 地山：灰褐色粘質土(マンガン粒含む)
6 溝 2 淡茶灰色粘質土
7 溝 3 淡茶灰色砂質土
8 溝 3 明橙灰色砂混粘質土(風化礫含む)
9 溝 3 明灰色砂混シルト(風化礫含む)
10 溝 3 淡褐灰色砂
11 溝 4 白茶灰色粘質土
12 溝 6 淡褐灰色粘質土
13 溝 7 淡黄灰色粘質土
14 土坑 1 乳茶灰色粘質土
15 土坑 2 淡褐灰色粘質土
16 淡褐灰色シルト
17 褐灰色シルト
18 溝 8 明灰褐色粘土
19 溝 8 明灰褐色粘土(暗茶紫灰色粘土ブロック混)
20 溝 8 暗茶紫灰色粘土
21 溝 8 褐灰黄色シルト
22 溝 8 淡褐灰色砂混シルト
23 溝 8 濃褐灰色砂混シルト
24 溝 9 茶灰色土
25 溝 9 淡褐灰色土
26 溝 9 淡橙灰色砂質粘土(風化礫含む)
27 溝 9 茶橙色粘質土
28 溝 9 淡灰色砂混粘土(風化礫含む)
29 溝 9 灰色砂(風化礫含む)
30 溝 9 橙灰色砂質粘土(風化礫、礫含む)
31 溝 9 濃茶灰色砂混粘土
32 溝 9 暗橙灰色砂(風化礫多量に含む)
33 溝 9 淡茶灰色砂混シルト
34 溝 9 淡橙茶灰色砂質粘土(礫含む)
35 溝 9 暗褐灰色粘土混シルト(風化礫多量に含む)
36 溝 9 明褐灰色砂混シルト
37 溝10 淡茶褐色土
38 溝11 濃灰黒色土
39 溝11 灰色土
40 溝11 茶灰色シルト
41 溝11 明灰橙色粘土
42 溝11 灰色粘土
43 溝12 淡褐色土
44 溝10 茶灰色粘土

第39図　神光寺(蓮池)遺跡92－２区　平面図・断面図

さ1mの溝を検出し、南肩部からは石槍未製品が出土した。また、トレンチの北側では、近代の溝の一部が２本検出された。

b．遺構

１トレンチ

－溝１－

東北から南西に延びる長さ1.0m以上、幅0.25m、深さ0.02mの溝である。埋土より土師器が出土した。

－溝２－

幅0.5～1m、深さ0.04mの東西溝。埋土は淡茶灰色粘質土で瓦器が出土した。

－溝３－

東から西に延び、トレンチ内で屈曲して南に約8mほど延びた後、トレンチの西側に延びる。幅2m、長さ9m以上、深さは最深部で0.48mである。溝４、溝６、土坑１、土坑２、ピット１に切られている。埋土は北部の深いところで４層、浅いところで２層に分かれる。弥生式土器が出土した。

－溝４－

幅0.15m、長さ1.5m以上、深さは最深部で0.12mで、溝３、溝５より新しい。埋土は白茶灰色粘質土である。

－溝５－

東から西に1m延びた後、トレンチ内で屈曲して南に約5mほど延びる。幅0.2～0.5mで北側を溝４に切られ、深さは0.4mである。埋土より瓦質土器が１片出土した。

－溝６－

幅0.22～0.68m、長さ1.5m以上、深さは最深部で0.12mの溝である。溝３、土坑２より新しい。埋土は淡褐灰色粘質土である。

－溝７－

長さ1.5m以上、深さは0.15m、幅0.95m以上で南側は攪乱で切られている。

－土坑１－

土坑の一部がトレンチにかかる程度で、幅1.8m以上、深さ0.2mを測る。溝３を切るように掘り込まれ、埋土は乳茶灰色粘質土である。土師器が１片出土した。

－土坑２－

溝３より新しく、溝６より古い。土坑１と同様に一部がトレンチにかかる程度の不定形の土坑である。埋土は暗灰茶色砂混粘土で、遺物は出土しなかった。

－ピット１－

溝３を切るように掘り込まれた直径0.4m、深さ0.2mを測るピットである。埋土より土師器が１片出土した。

２トレンチ

－溝８－

長さ1.5m以上、幅0.7m、深さ0.25mを測る。地山面から掘り込まれる東西溝で、北部を溝９に切られている。埋土は３層に分かれ、土師器が１片出土した。

－溝９－

溝８より新しい。一部がトレンチにかかる程度で、規模などは不明だが、深さは

0.4mを測る。埋土は2層に分かれる。

3トレンチ

－溝10－

中央部で長さ1.5m、幅8m、深さ1mの東西溝を検出した。南肩部からは石槍未製品が出土した。

－溝11－

トレンチの北部では、南北溝の一部が2本検出された。溝12より新しく、耕作土から掘り込まれている。長さ6.5m以上を測り、深さ0.9mで近代の土管を検出した。土師器、瓦、陶器などが出土した。

－溝12－

溝11より古い南北溝で、長さ1.7m以上、深さ0.9m以上を測る。遺物は土師器、須恵器、瓦器、土師質蛸壺、近世瓦、陶磁器などが出土した。

c．遺物

1トレンチ

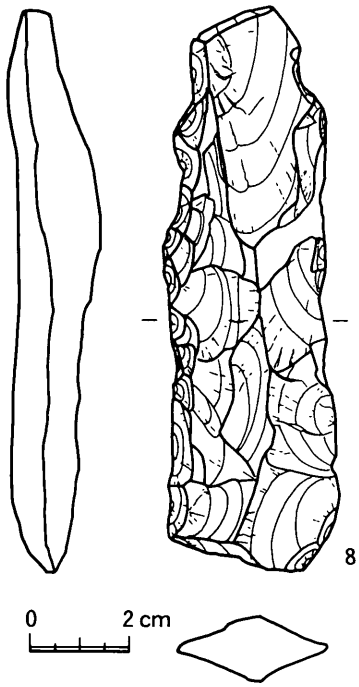
1は土師質土器の小皿で、中世のものである。

2トレンチ

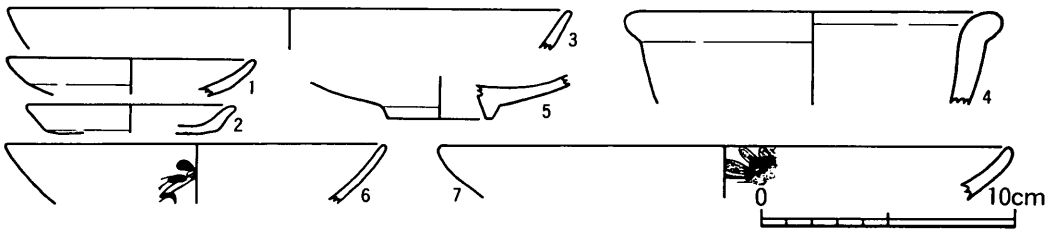
2は土師質土器の小皿で、中世のものである。8は溝9から出土したサヌカイトの石槍未製品である。

3トレンチ

3は須恵器の坏身で、奈良時代のものと思われる。4は土師質土器の蛸壺で、中世のものである。5は陶器椀の高台部で溝12から出土した。6は染付碗の口縁部、7は染付皿の口縁部で共に溝11から出土した。




第40図　神光寺(蓮池)遺跡92－2区　出土遺物2




第41図　神光寺(蓮池)遺跡92－2区　出土遺物1

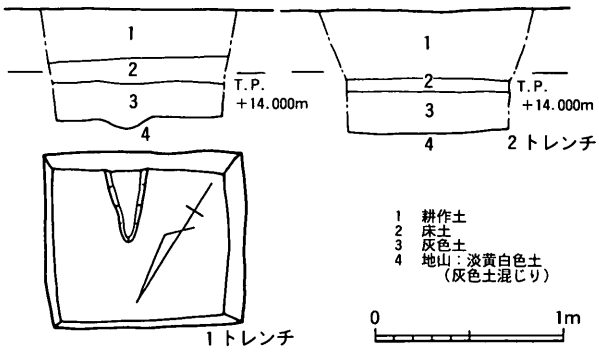
## 第8節　黒田南遺跡

黒田南遺跡は、阪南市の北東部に位置する。1987年度に実施された分布調査では、瓦器片等の散布が確認されている。店舗建設に伴い1988年に実施された調査では、弥生式土器をはじめ、瓦器椀、瓦質土器羽釜、中世期の瓦等が出土し、遺物包含層の存在が確認されている。

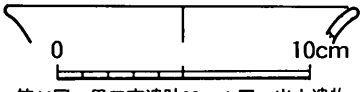
92－１区

ａ．調査の概要

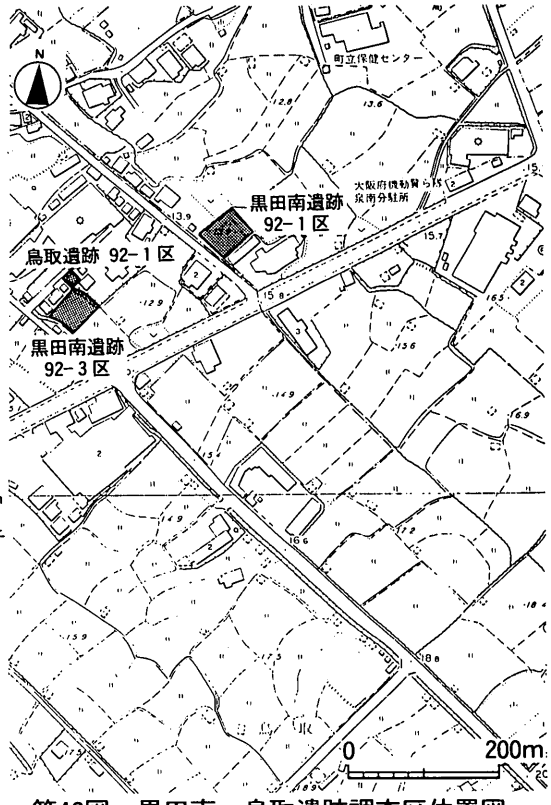
本調査区は、黒田南遺跡のほぼ中央部に位置する。調査区内に1m×1mの第１トレンチおよび1.2m×1.2mの第２トレンチを設定し、調査を実施した。耕作土、床土以下の層序は、両トレンチとも灰色土、淡黄白色土（無遺物層）の順であった。第１トレンチで、幅0.15m以上、長さ0.4m以上の鋤溝を検出した。




第43図　黒田南遺跡92－１区　トレンチ平面図・南側断面図




第44図　黒田南遺跡92－１区　出土遺物

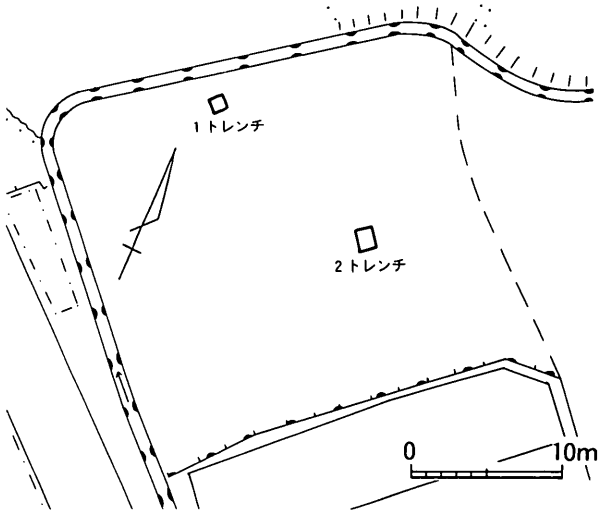



第42図　黒田南・鳥取遺跡調査区位置図

遺物は、灰色土層より土師質土器が数点出土したが、いずれも小片であった。図化し得たのは次の１点であった。

ｂ．遺物

土師質土器の椀の口縁部である。磨滅を受けており、調整等の詳細は、不明である。

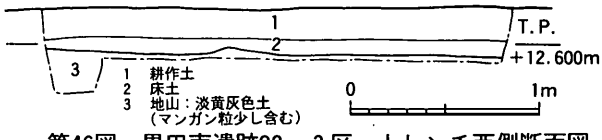



第45図　黒田南遺跡92－１区　トレンチ位置図

92－３区

調査の概要

本調査区は、黒田南遺跡の南西部に位置する。調査区内に1.5m×2.5mのトレンチを設定し、調査を実施した。耕作土、床土の直下が淡黄灰色土であっ




第46図　黒田南遺跡92－３区　トレンチ西側断面図

た。この淡黄灰色土層が無遺物層と思われる。遺構、遺物とも検出されなかった。

## 第９節　鳥取北遺跡

鳥取北遺跡は、東西に拡がる平野部のほぼ中央部に位置する。1988年度に実施された分布調査により周知されたが、これまで同遺跡内での調査例はなく、以下の報告がはじめての調査となった。

92－1区

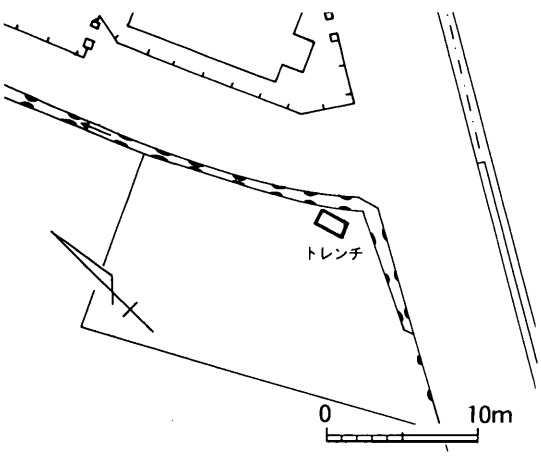
ａ．調査の概要

本調査区は、鳥取北遺跡のほぼ中央部に位置する。調査区内に2m×2.2mのトレンチを設定し、調査を実施した。盛土以下の層序は、茶色砂質土、淡灰色土、淡黄白色礫混粘土（無遺物層）の順であった。淡灰色土から土師質土器、瓦器等が検出された。淡黄白色礫混粘土上面で溝を確認した。

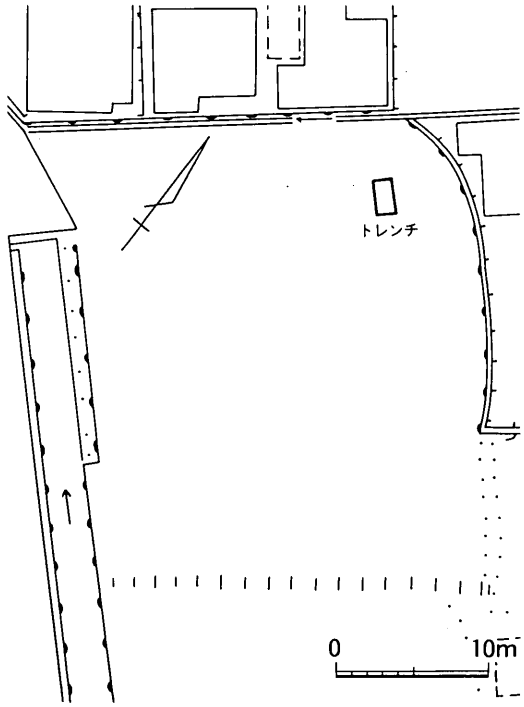
ｂ．遺構

－溝－

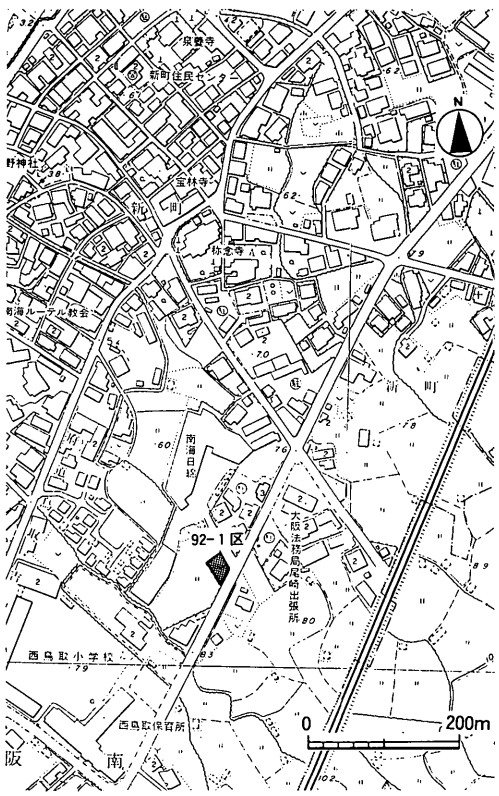
トレンチの南端で東西方向に延びる溝を検出した。幅0.8m以上、深さ0.08mを呈する。



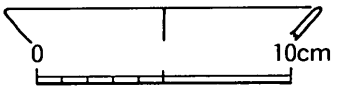

第48図　鳥取北遺跡92－１区　トレンチ位置図




第47図　黒田南遺跡92－３区　トレンチ位置図



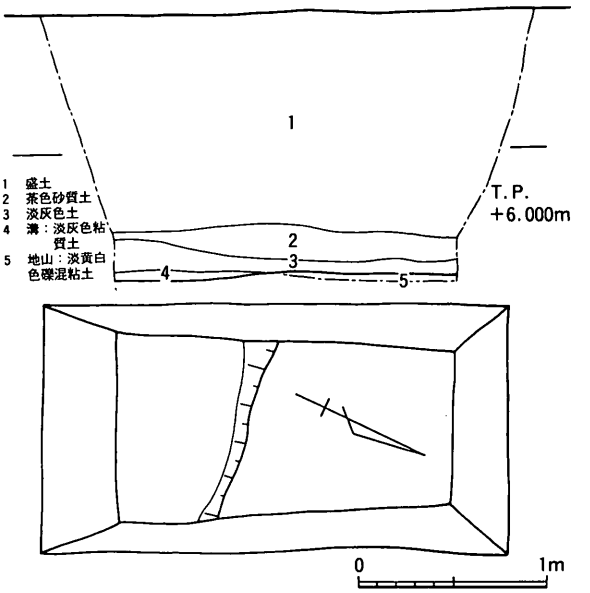

第49図　鳥取北遺跡調査区位置図



第50図　鳥取北遺跡92－１区　出土遺物

c．遺物

前述したように、土師質土器、瓦器等が遺物包含層より出土した。うち図化し得たものは第50図に示した１点であった。土師質土器の椀の口縁部である。かなり磨滅を受けており、調整については不明である。



第51図　鳥取北遺跡92－１区　トレンチ平面図・西側断面図

## 第10節　鳥取遺跡

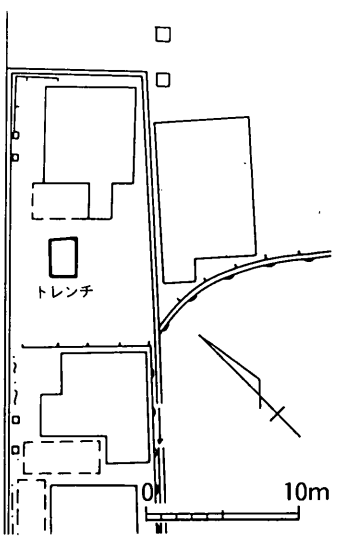
鳥取遺跡は、市域の東西に拡がる平野部のほぼ中央部に位置する。先述の黒田南遺跡、鳥取北遺跡および弥生時代の集落跡の存在が想定されている鳥取南遺跡に囲まれている。1988年度に実施された分布調査により周知された。鳥取北遺跡と同様これまで同遺跡内での調査例はなく、今回がはじめての調査となった。

92－１区

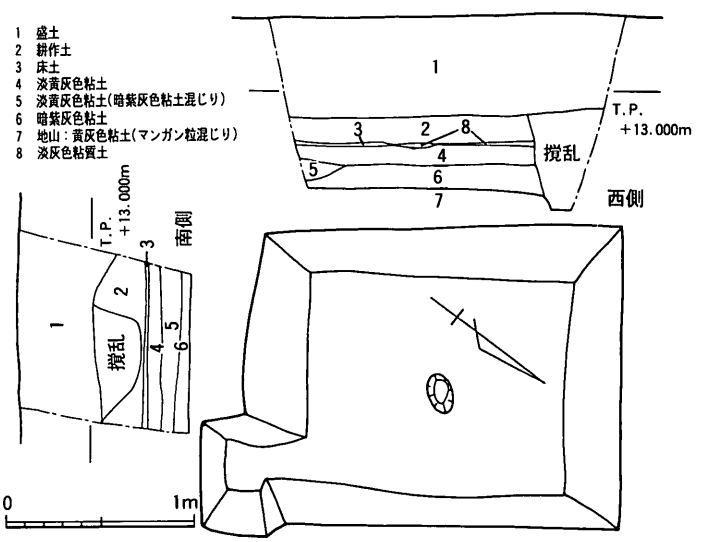
調査の概要

調査区は鳥取遺跡の北西部に位置する。調査は調査区内に2m×1.5mのトレンチを１箇所設定して実施した。

基本的な層序は第53図のとおりである。遺構は第４層上面で鋤溝、第７層地山上



第52図　鳥取遺跡92－１区　トレンチ位置図

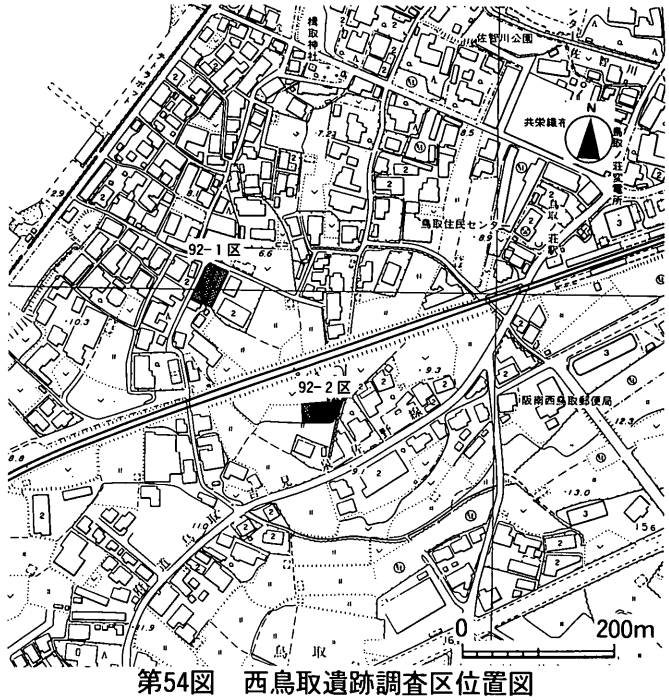


第53図　鳥取遺跡92－１区　トレンチ平面図・断面図

面でピット１が検出された。ピットから遺物は出土しなかったが、中世を下らないものと思われる。遺物は土師器、瓦質土器などが出土したが、図化できるものはなかった。

## 第11節　西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は、市域の東西に拡がる平野部のほぼ中央部に位置する。1988年度に実施された分布調査により周知された。これまで、数件の小規模な調査が実施されている。１箇所で流路の可能性が考えられる遺構が検出された。また遺物としては、須恵器の他、中世期の瓦や蛸壺、土師質土器の破片等が出土している。



第54図　西鳥取遺跡調査区位置図

92－１区

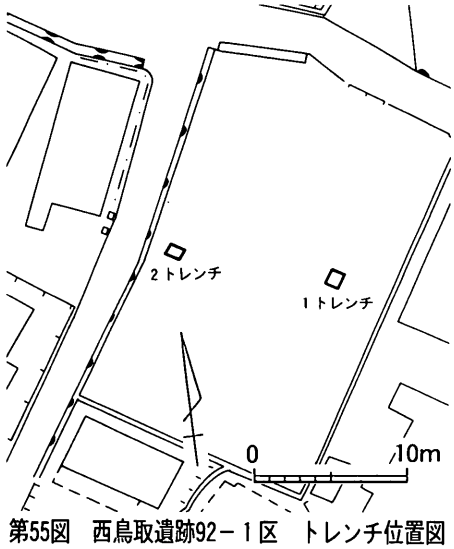
ａ．調査の概要

調査区は西鳥取遺跡の北西部に位置する。調査は調査区内に1m×1mのトレンチを２箇所設定して実施したが、遺構は検出されなかった。

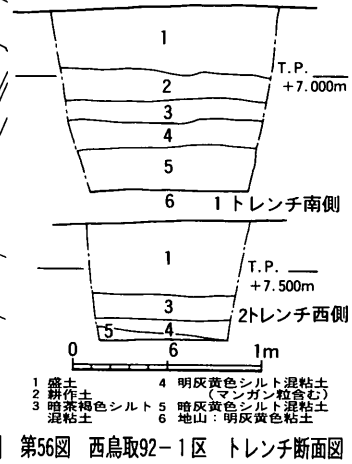
基本的な層序は第56図のとおりである。１トレンチから土師器、須恵器、２トレンチから土師器、須恵器、陶磁器、瓦が出土した。

ｂ．遺物

１・２は１トレンチの第５・６層から出土した須恵器の坏身である。３～６は、２トレンチの盛土から出土した。３は土師質の管状土錘、４・５は陶器の壺と鉢、６は鉄製釘である。



第55図　西鳥取遺跡92－１区　トレンチ位置図



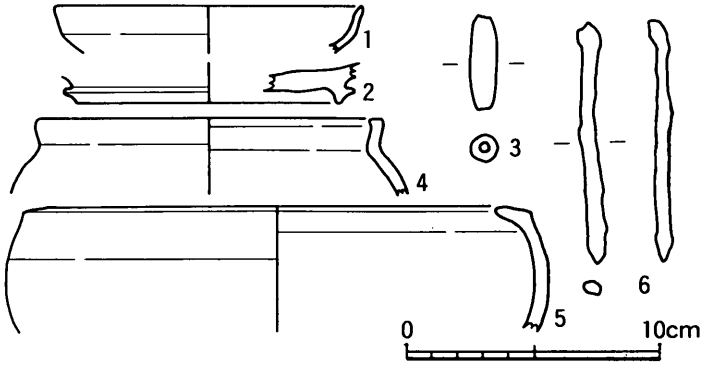
第56図　西鳥取92－１区　トレンチ断面図

92－２区

ａ．調査の概要

調査区は西鳥取遺跡の北東部、先述した92－１区の南東200mに位置する。調査は調査区内に2m×1mのトレンチを設定して実施した。

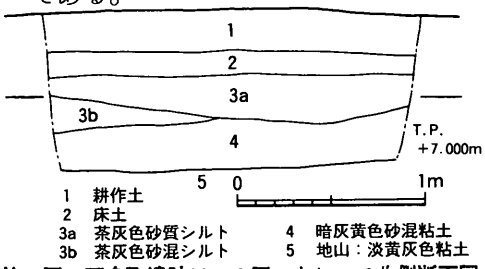
基本的な層序は第58図のとおりで、第５層は淡黄灰色粘土（無遺物層）である。遺物は第１層から土師器、第３層から土師器、須恵器、蛸壺、陶磁器、第４層から土師器、須恵器、青磁が出土した。遺構は検出されなかった。



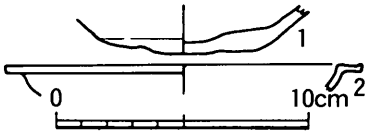
第57図　西鳥取遺跡92－１区　出土遺物

ｂ．遺物

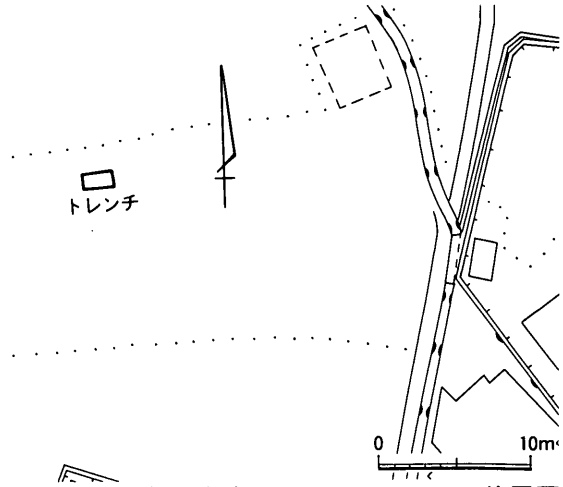
１は第４層から出土した須恵器の杯身である。２は第３層から出土した陶器の皿である。



第58図　西鳥取遺跡92－２区　トレンチ北側断面図



第59図　西鳥取遺跡92－２区　出土遺物

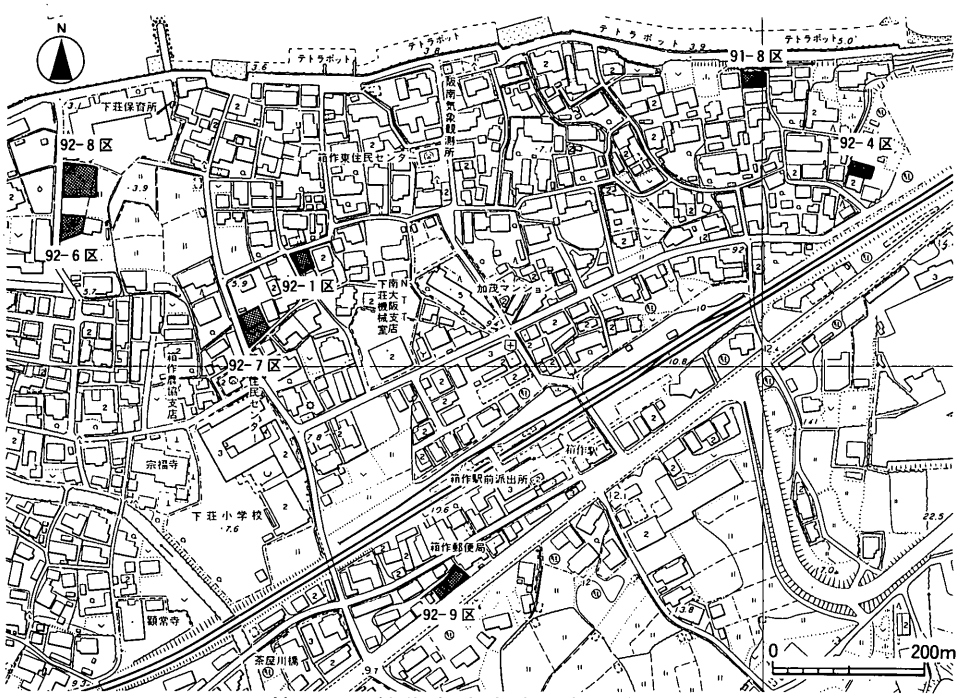


第60図　西鳥取遺跡92－２区　トレンチ位置図

## 第12節　箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は、本市の西部に位置している。茶屋川、飯ノ峯川等が形成する平野部に拡がっている。

既往の調査では、漁撈関係の遺物や遺構が検出しているほか、須恵器、土師器、瓦器等の生活遺物も今日の箱作地区の集落と重なる地域を中心として出土している。これらのことから、少なくとも７～８世紀の頃には、この周辺に漁撈等の業いの中心とした集落が存在していたようである。中世から近世にかけては、輸入陶磁器が過去に出土しており、当時における交易を伺うことができる。昨年の箱作区画整理事業に伴う調査においては、本遺跡の南側周辺地区での活動の開始が中世まで遡ることが確実となった。また、一部ではそれ以前に遡る遺物・遺構も認められた。




第61図　箱作今池遺跡調査区位置図

91－8区

a．調査の概要

本調査区は、箱作今池遺跡の北部に位置する。

耕作土から近世以降の陶器、土錘等を出土した。以下、数cmの暗褐灰色粘土混細砂層をはさんで暗黄灰色粗砂層にいたる。トレンチ南東部では、明黄灰色粘土上面から掘り込まれた土坑を検出した。

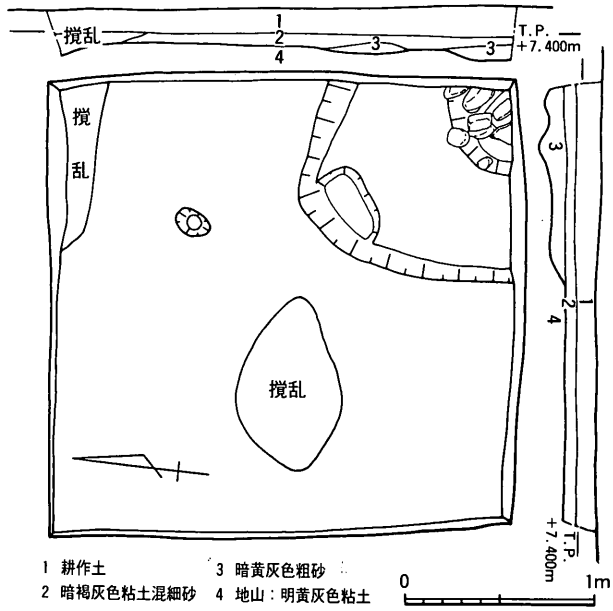
b．遺構

－土坑－

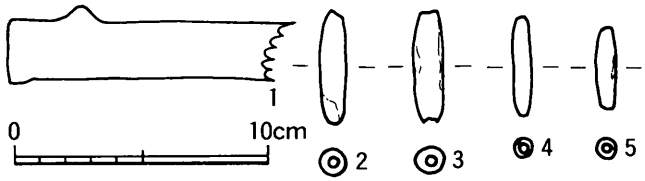
トレンチ南東部で、深さ0.1m程度の土坑を検出した。遺物を若干伴うが、この土坑の時期を断定できるものはない。

c．遺物

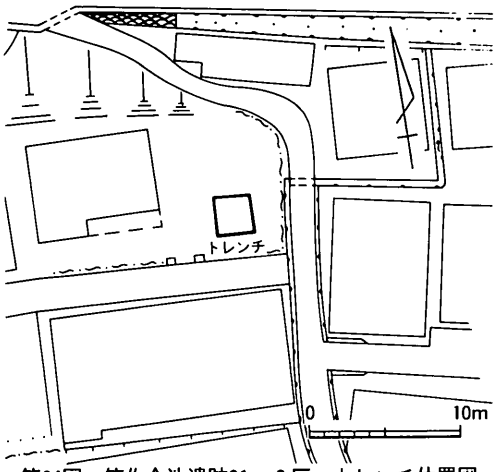
1は道具瓦である。焼成は良好堅緻、胎土も密であり、近世



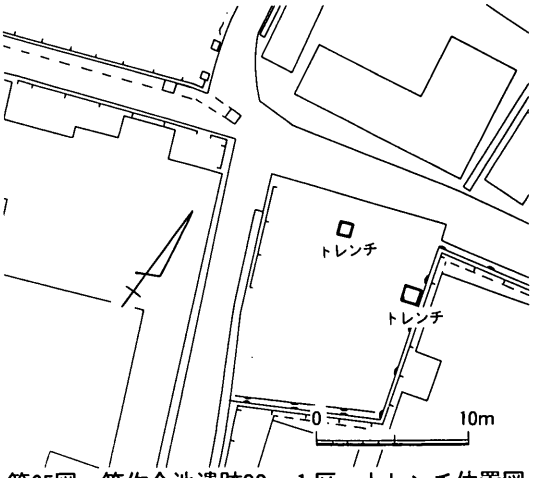

第62図　箱作今池遺跡91－8区　トレンチ平面図・断面図




第63図　箱作今池遺跡91－8区　出土遺物




第64図　箱作今池遺跡91－８区　トレンチ位置図



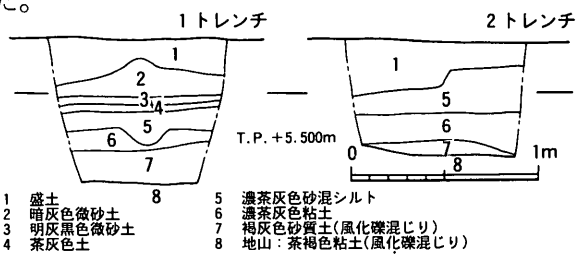

第65図　箱作今池遺跡92－１区　トレンチ位置図

期のものと思われる。２～５は、土師質の管状土錘である。いずれも完形もしくはほぼ完形である。耕作土中から出土した。

92－１区

ａ．調査の概要

調査区は箱作今池遺跡の北部、現海岸線から数十m内陸部に位置する。調査は調査区内に1m×1mトレンチを２箇所設定して実施した。

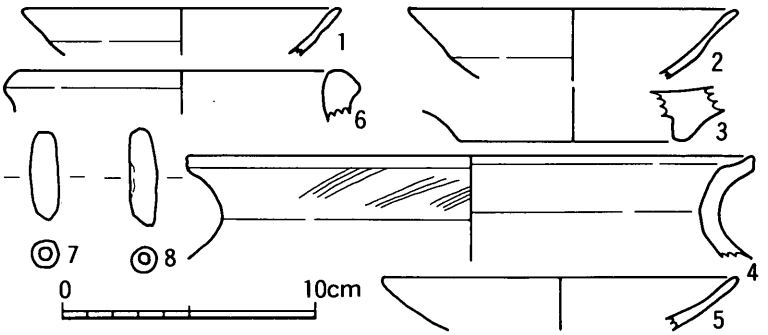



第66図　箱作今池遺跡92－１区　トレンチ北側断面図

各トレンチの層序は第66図のとおりである。１トレンチの遺物包含層から土師器、瓦器、陶磁器、瓦、蛸壺等、２トレンチの遺物包含層から土師器、白土器、瓦器、陶器、蛸壺、土錘、焼土塊等を出土したが、遺構は検出されなかった。

ｂ．遺物

１～５は１トレンチから出土した。１・２は瓦器椀の口縁部、３は青磁碗の底部、４は瓦質土器甕の口縁部、５は磁器碗の口縁部である。６～８は２トレンチから出土した。６は土師質蛸壺の口縁部、７・８は土師質の管状土錘である。



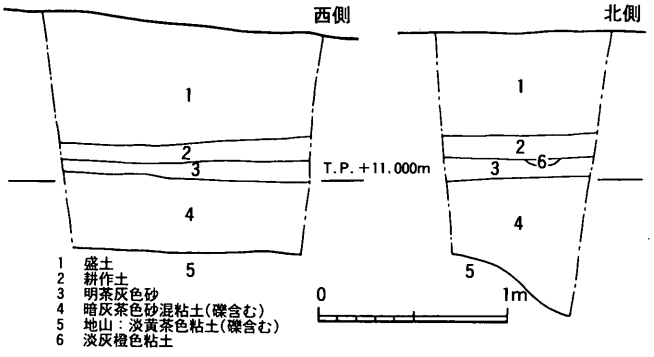

第67図　箱作今池遺跡92－１区　出土遺物

92－4区

a．調査の概要

調査区は現海岸線から数十m内陸部に位置する。調査は調査区内に1.5m×1mのトレンチを設定して実施した。

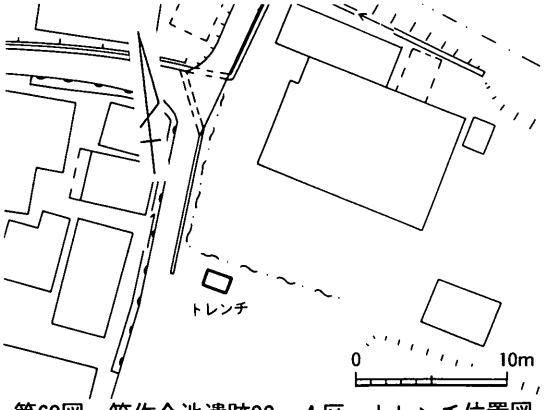
人力掘削したところ基本的な層序は第68図のとおりで、表土面より深さ1.5mで無遺物層(地山)を検出した。地山は東部に低く傾斜している。遺物包含層から土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、蛸壺、土錘、鉱滓等30点余りが出土した。遺構は検出されなかった。



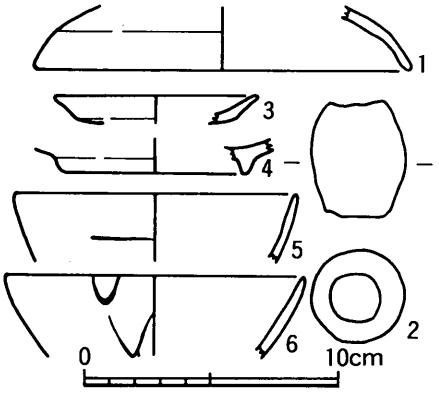

第68図　箱作今池遺跡92－4区　トレンチ断面図

b．遺物

遺物は全て第3・4層から出土した。1は須恵器坏蓋の口縁部、2は土師質の管状土錘、3は瓦器小皿、4は陶器椀の底部、5・6は染付碗の口縁部である。




第69図　箱作今池遺跡92－4区　トレンチ位置図

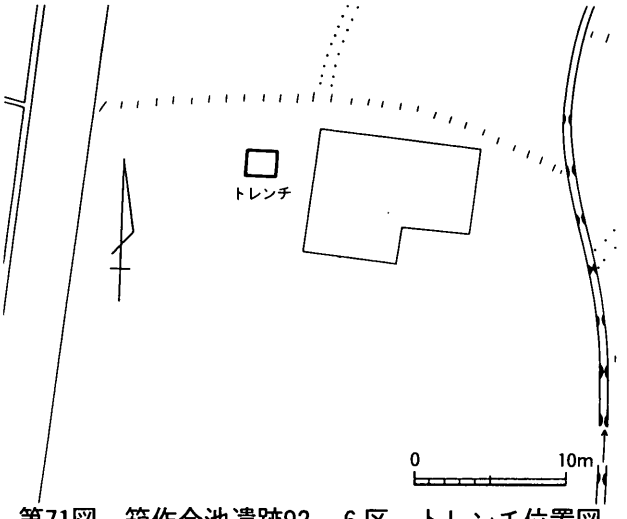



第70図　箱作今池遺跡92－4区　出土遺物

92－6区

a．調査の概要

調査区は箱作今池遺跡の北部、現海岸線からは数十mの所に位置する。調査は、調査区内に2m×1.5mのトレンチを設定して実施した。層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色砂質土、第4層暗灰色土、第5層暗灰色土（淡灰黄色粘土混じり)、第6層淡灰黄色粘土は、無遺物層で

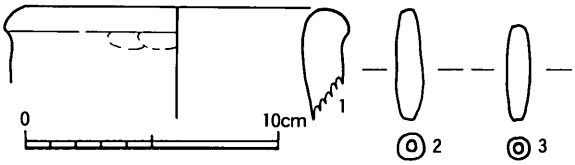



第71図　箱作今池遺跡92－6区　トレンチ位置図

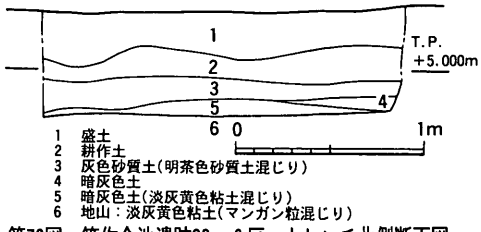
あった。遺物は第３層から土錘、蛸壺、瓦器、第４層から須恵器、土師器、陶磁器、蛸壺、瓦を検出した。遺構は、検出されなかった。

ｂ．遺物

遺物包含層から、前述のように土師器、須恵器等が出土した。その中で図化し得たものは、つぎの３点である。１は土師質の蛸壺、２・３は共に土師質の管状土錘の完形品である。




第72図　箱作今池遺跡92－６区　出土遺物

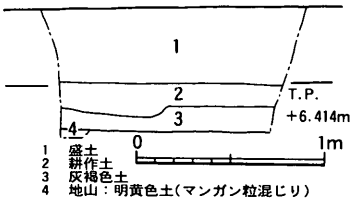



第73図　箱作今池遺跡92－６区　トレンチ北側断面図

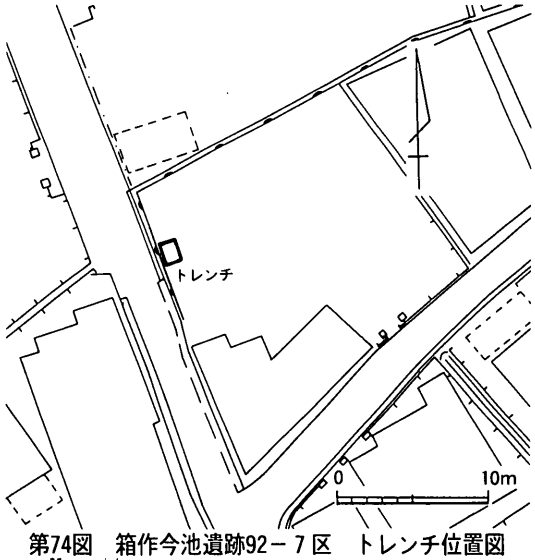
92－７区

調査の概要

本調査区は、箱作今池遺跡北西部に位置する。調査区内に1.2m×1.5mのトレンチを設定し、調査を実施した。近年の盛土、耕作土以下に灰褐色土、明黄色土が確認された。この明黄色土が無遺物層と思われる。遺構、遺物ともに検出されなかった。




第75図　箱作今池遺跡92－７区　トレンチ東側断面図

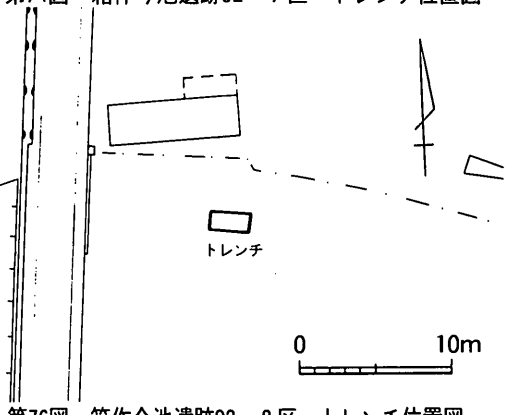



第74図　箱作今池遺跡92－７区　トレンチ位置図

92－８区

ａ．調査の概要

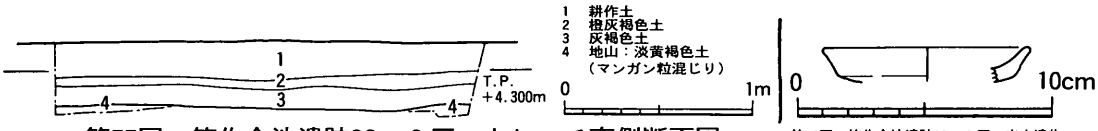
本調査区は、箱作今池遺跡の北西端部に位置する。先述の92－６区に隣接している。調査区内に1.5m×2.5mのトレンチを設定し調査を実施した。耕作土以下の層序は、第２層橙褐色土、第３層灰褐色土、第４層淡黄褐色土（無遺物層）であった。第１層より瓦器、土師質土器が、第３層より須恵器、土師質土器、瓦器が出土した。遺構としては、ピットを検出した。




第76図　箱作今池遺跡92－８区　トレンチ位置図

b．遺物

瓦器皿である。焼成は良好堅緻、胎土も密であるが、表面に有機物が付着しており、調整等は不明である。




第77図　箱作今池遺跡92－８区　トレンチ南側断面図

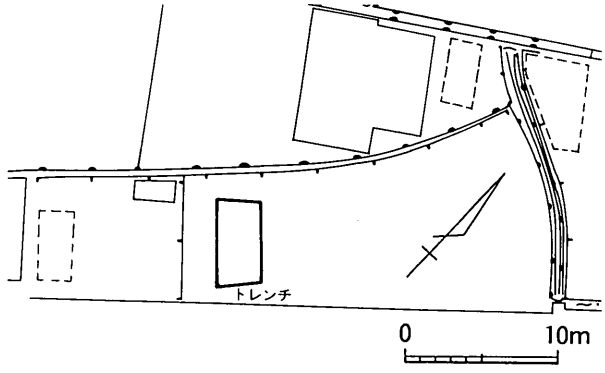
第78図　箱作今池遺跡92－８区　出土遺物

92－９区

a．調査の概要

調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査は調査区内に4m×2mのトレンチを設定して実施した。

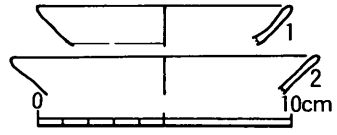
層序は、第81図のとおりである。土坑を検出したが、遺物は出土しなかったため時代などは不明である。遺物包含層から土師器、須恵器、瓦器、瓦、蛸壺、焼土塊等が出土した。



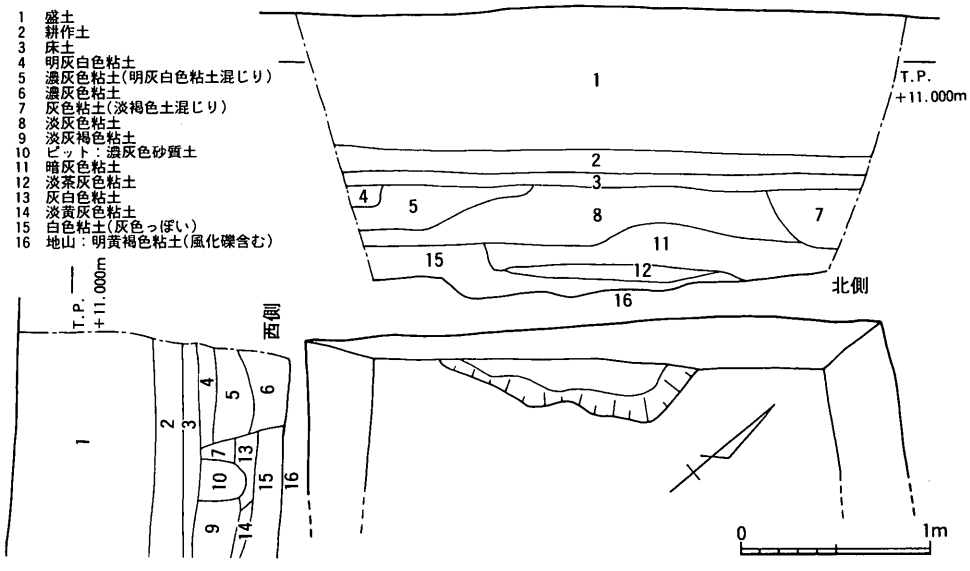

第79図　箱作今池遺跡92－９区　トレンチ位置図

b．遺物

１は土師質土器小皿の口縁部、２は瓦器椀の口縁部である。



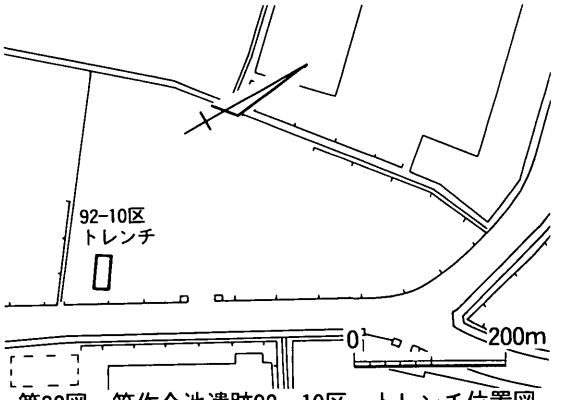

第80図　箱作今池遺跡92－９区　出土遺物



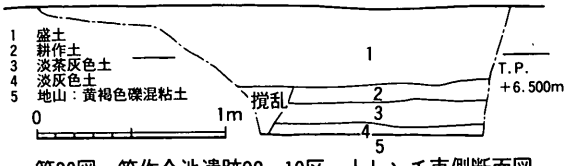

第81図　箱作今池遺跡92－９区　トレンチ平面図・断面図

92－10区
調査の概要

本調査区は、箱作今池遺跡の北西部に位置する。先述した92－７区に隣接している。調査は、調査区内に1.2m×2.5mのトレンチを設定して実施した。近年の盛土以下の層序は、耕作土、淡茶灰色土、淡灰色土、黄褐色礫混粘土であった。淡茶灰色土層、淡灰色土層から土師質土器等が数片出土した。黄褐色礫混粘土層は、無遺物層と思われる。遺構は検出されなかった。なお、遺物はいずれも小片のため図化し得なかった。



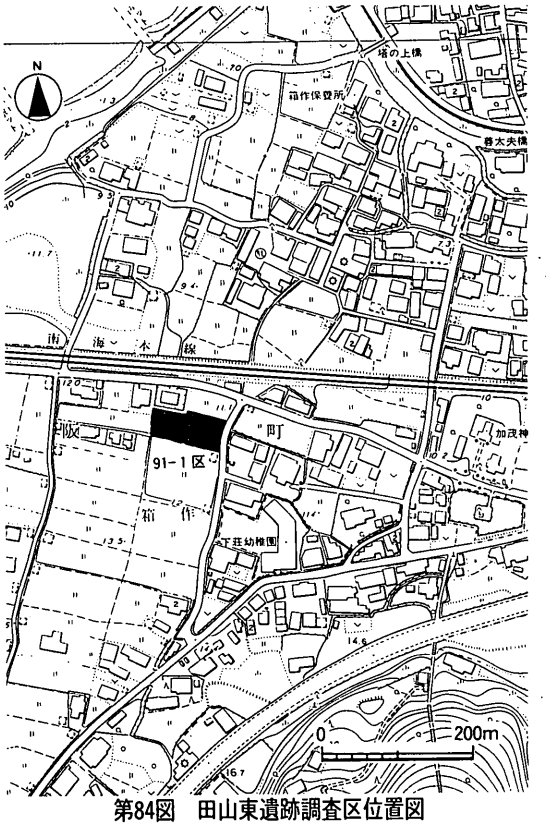
第82図　箱作今池遺跡92－10区　トレンチ位置図



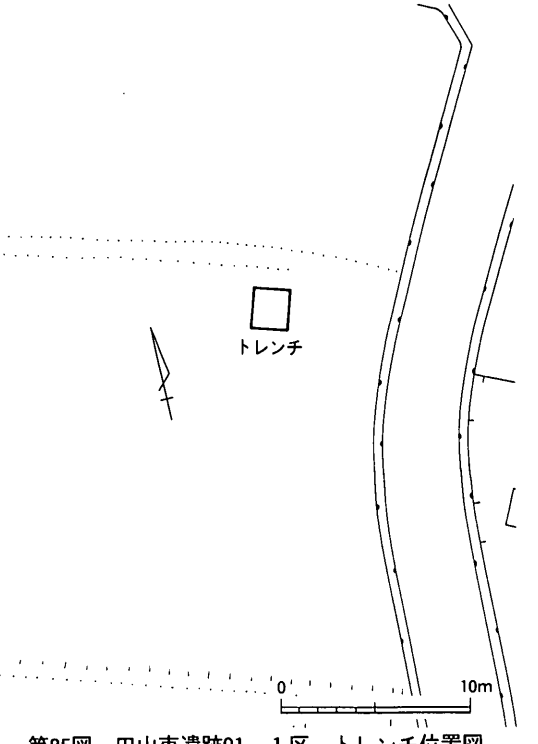
第83図　箱作今池遺跡92－10区　トレンチ東側断面図

## 第13節　田山東遺跡

田山東遺跡は、1988年度に実施された文化財分布調査によって周知された遺跡である。既往の調査では、中世期の遺物等が出土している。



第84図　田山東遺跡調査区位置図



第85図　田山東遺跡91－１区　トレンチ位置図

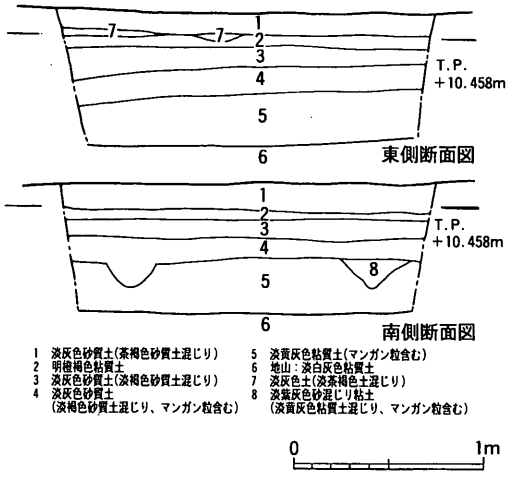
91－1区

a．調査の概要

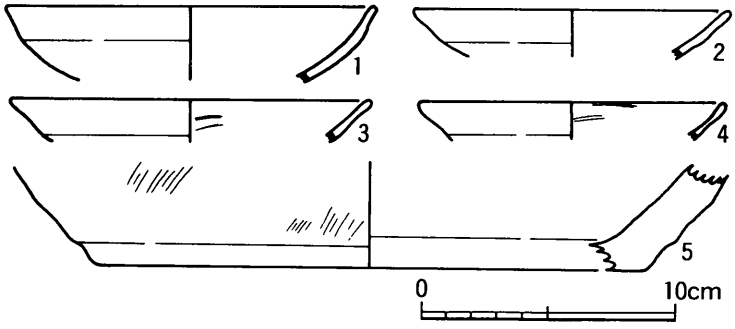
調査区は田山東遺跡の北東部にあたる。基本的層序は、第1層淡灰色砂質土、第2層明橙褐色粘質土、第3層淡灰色砂質土、第4層淡灰色砂質土（マンガン粒混じり）、第5層淡黄灰色粘質土、第6層は無遺物層で淡白灰色粘質土（地山）であるが、耕作土はすでに除去されていた。土師器、須恵器、瓦器、蛸壺、平瓦、磁器等を出土した。遺構は鋤溝と思われる幅0.3m、長さ1.4m以上、深さ0.02mと、幅0.5m、長さ2.0m以上、深さ0.04mの浅い溝を2本検出した。埋土は淡灰色土で、遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

b．遺物

1～4は瓦器椀の口縁部、5は須恵質土器こね鉢の底部である。東播系のものであろう。1・2・5は第2層、3・4は第3層から出土した。



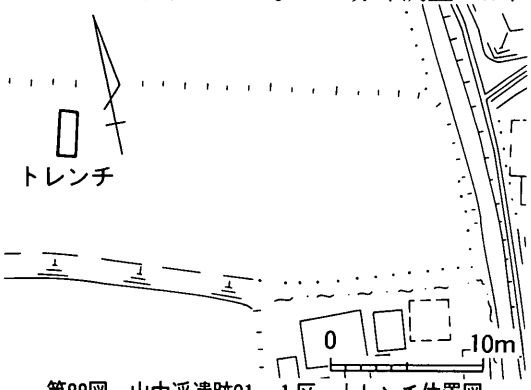

第86図　田山東遺跡91－1区　トレンチ断面図



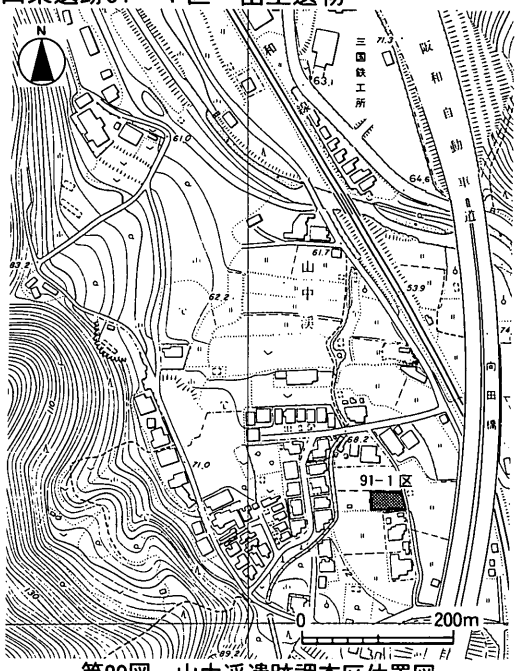

第87図　田山東遺跡91－1区　出土遺物

## 第13節　山中渓遺跡

山中渓遺跡は、阪南市の南東部に位置する。男里川水系山中川が形成した谷合に拡がる。1988年度に実施された分布調査により周知された。この分布調査では、




第88図　山中渓遺跡91－1区　トレンチ位置図



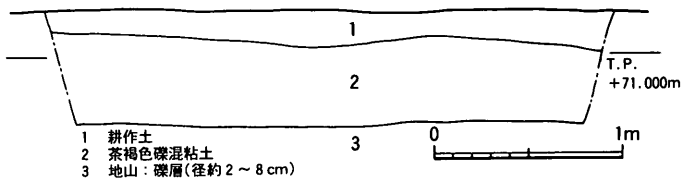

第89図　山中渓遺跡調査区位置図

土師質土器、青磁等が採取されている。

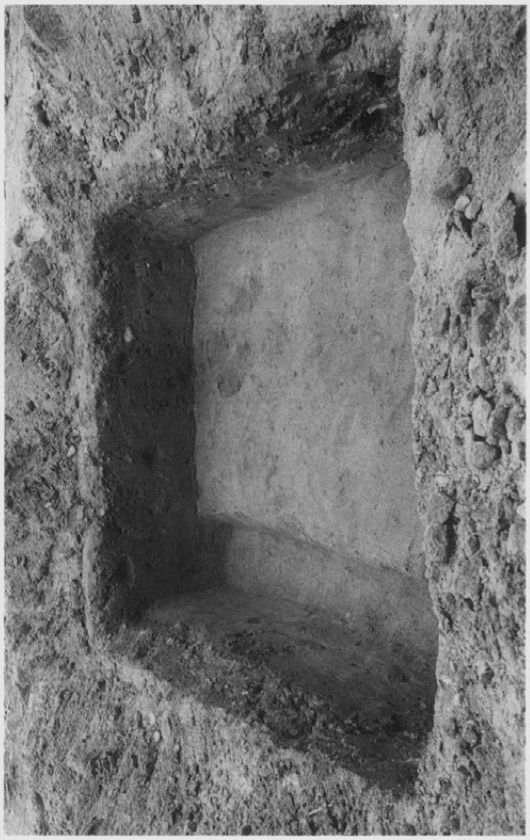
91－1区

調査の概要

調査区は、山中渓遺跡のほぼ中央部に位置する。調査区内に1.5m×3mのトレンチを設定し、調査を実施した。耕作土直下が、茶褐色礫混粘土層であった。この層の上面で遺構確認を行った後、さらに約0.5m程度掘削を行ったが、遺物が検出されず、無遺物層と考えられる。耕作土中にも遺物は確認されず、遺構も検出されなかった。




第90図　山中渓遺跡91－1区　トレンチ西側断面図

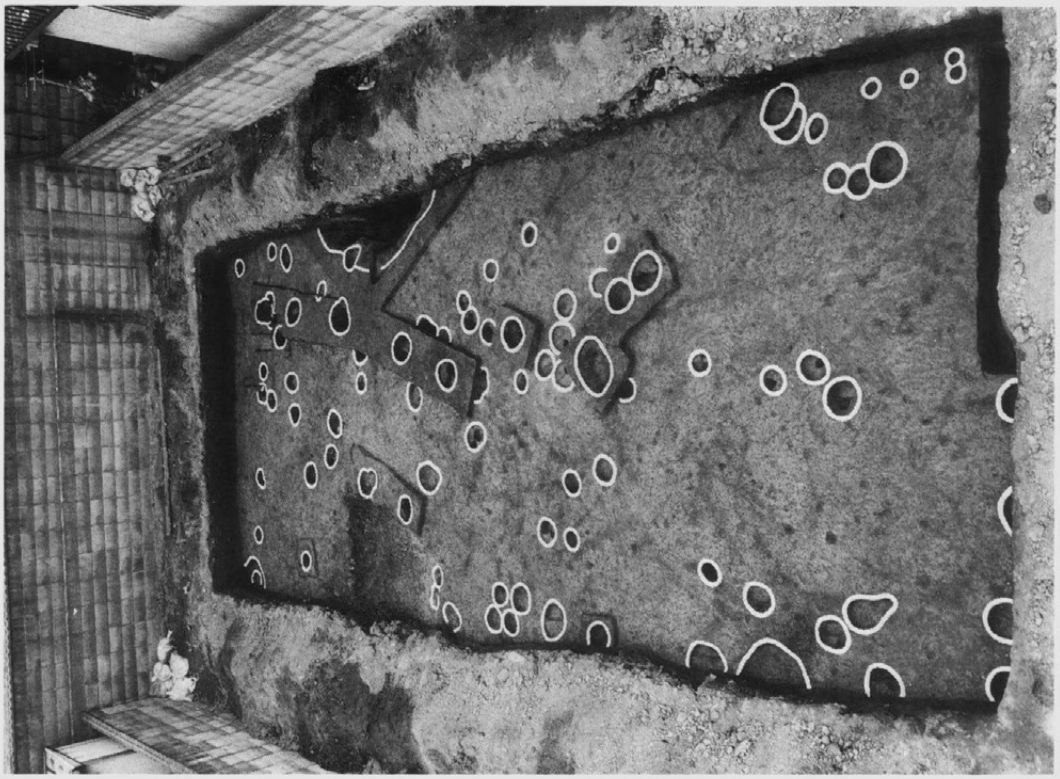


尾崎海岸遺跡92－１区トレンチ全景（南より）

馬川遺跡92－１区トレンチ全景（南より）

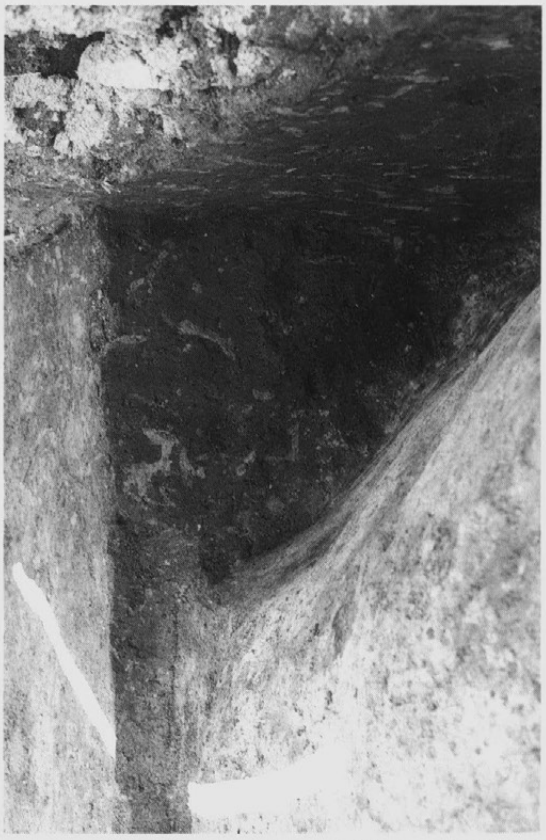
下出遺跡92－１区トレンチ全景（西より）

馬川遺跡92－３区トレンチ全景（西より）



下出遺跡92－２区トレンチ全景（西より）

下出遺跡92－２区　土坑１（北より）



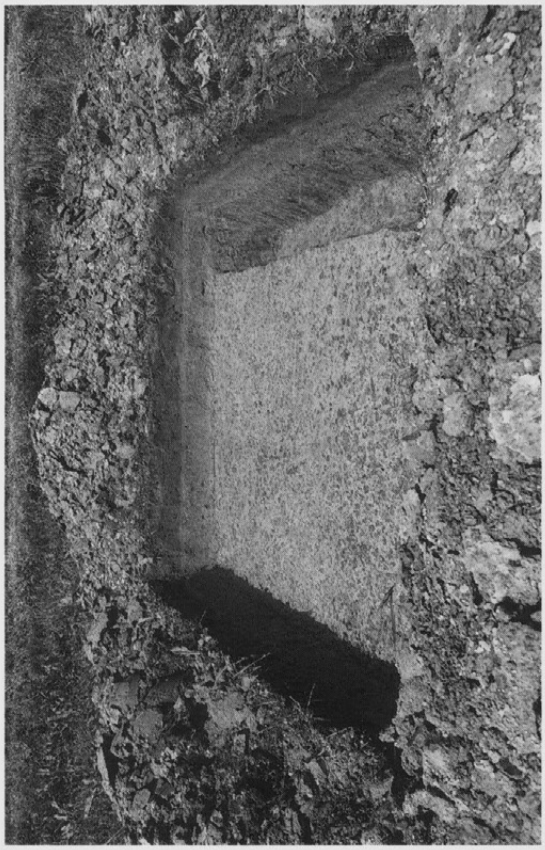
下出遺跡92－２区　土坑１　東側断面

下出遺跡92－４区トレンチ全景（北より）

向出遺跡92－１区トレンチ全景（東より）

室堂遺跡92－１区トレンチ全景（南より）

自然田遺跡91－１区トレンチ全景（東より）



神光寺(蓮池)遺跡92－１区トレンチ全景(南より)

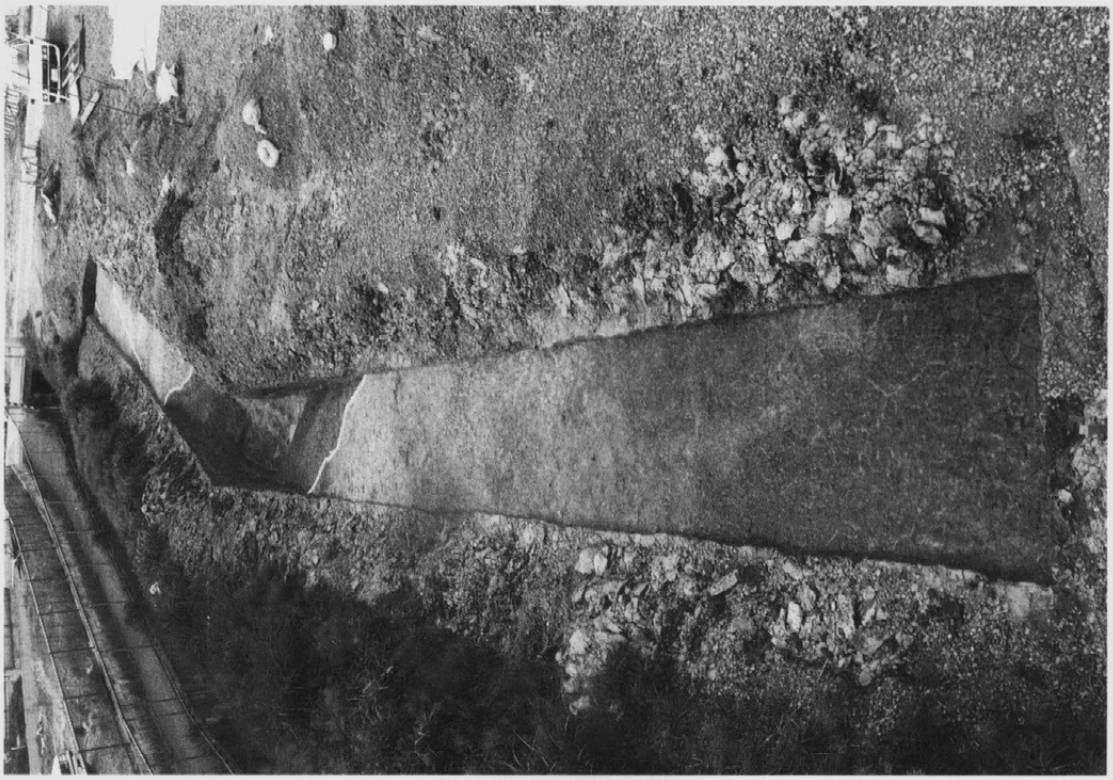
神光寺(蓮池)遺跡92－２区　１トレンチ　溝３(西より)

神光寺(蓮池)遺跡92－２区　１トレンチ　全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡92－２区　２トレンチ全景(南より)

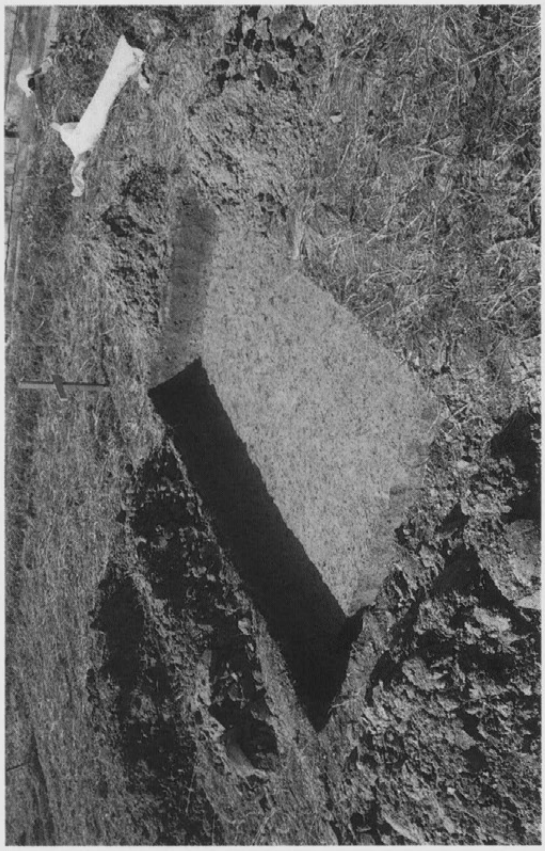
神光寺(蓮池)遺跡92－２区　１トレンチ 溝３　東側断面

神光寺(蓮池)遺跡92－２区　２トレンチ 溝８　南側断面

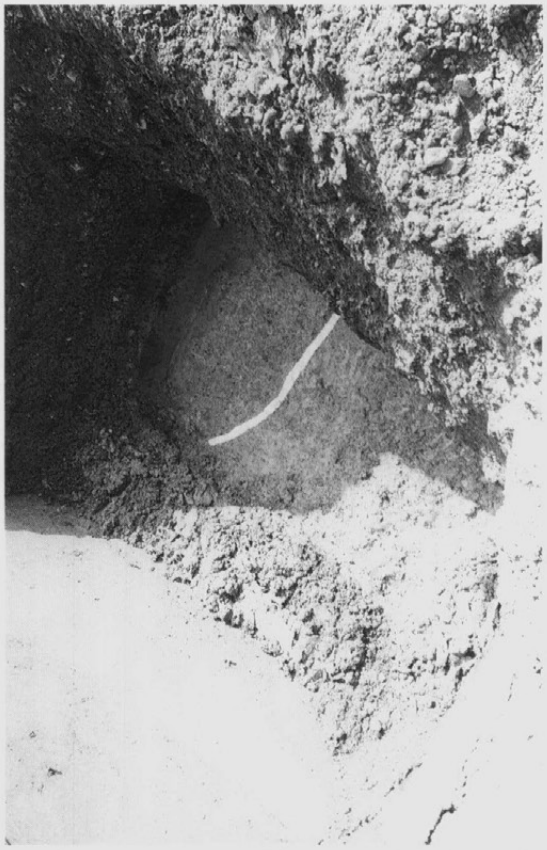


神光寺(蓮池)遺跡92－2区　3トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡92－2区　3トレンチ　溝9(北より)

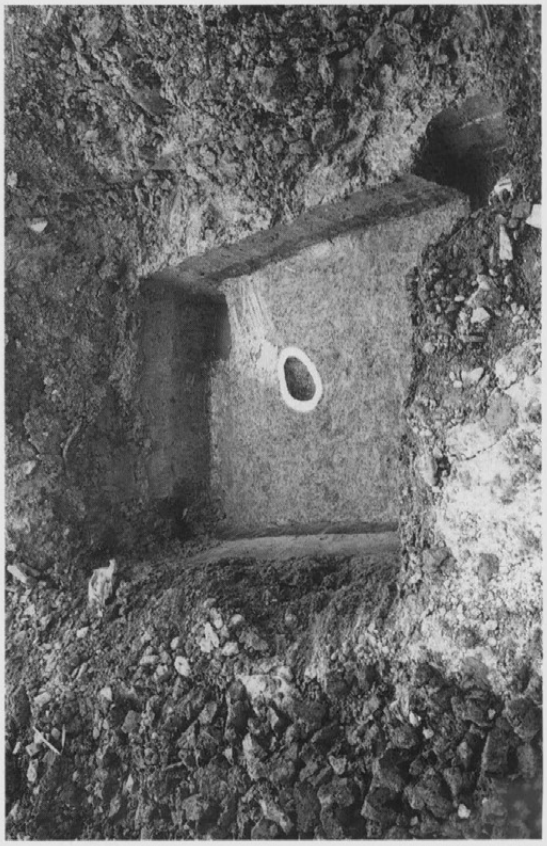


黒田南遺跡92－３区トレンチ全景（南より）



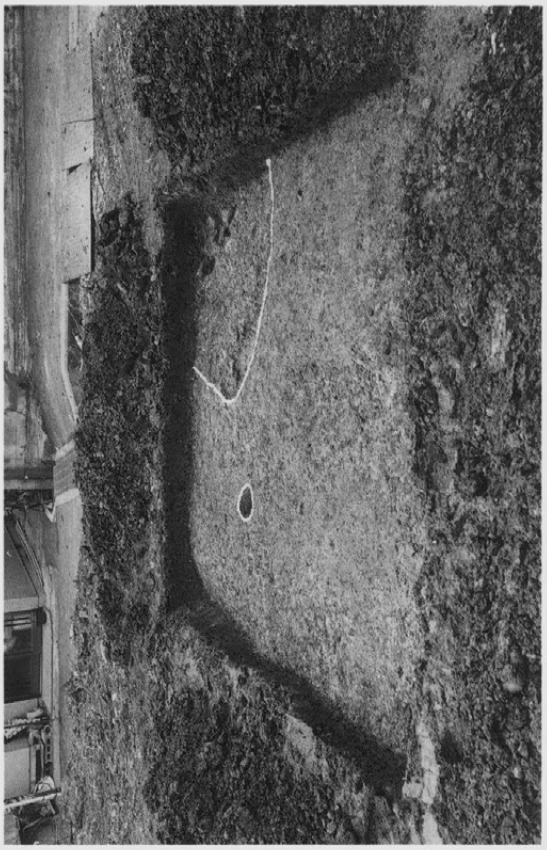
鳥取北遺跡92－１区トレンチ全景（北より）

黒田南遺跡92－１区トレンチ全景（北より）

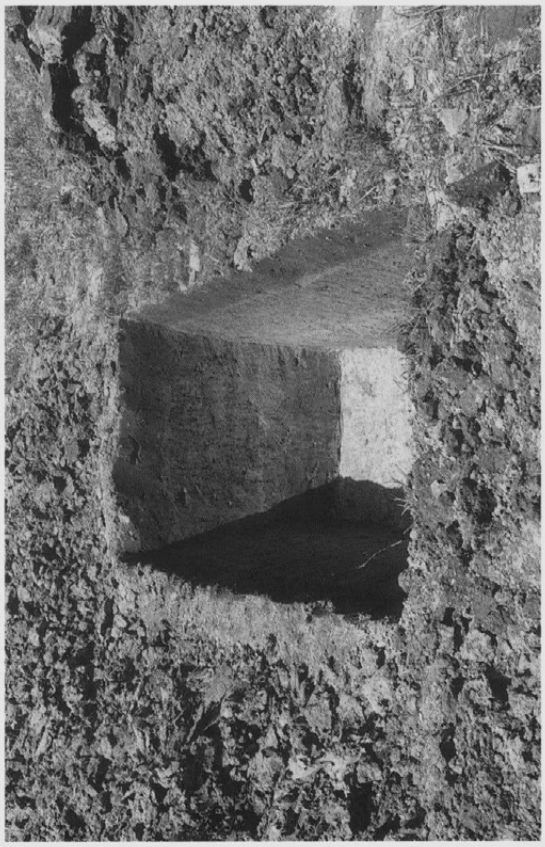


鳥取遺跡92－１区トレンチ全景（北より）

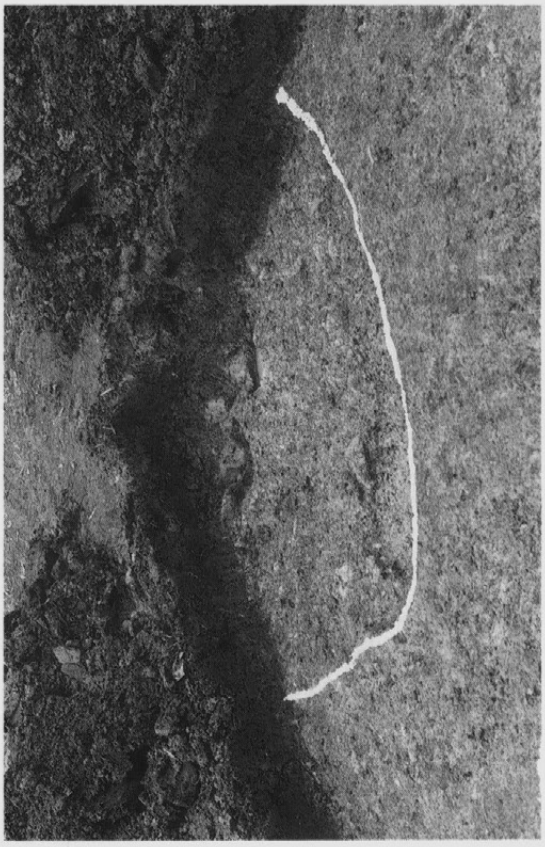
西鳥取遺跡92－１区トレンチ全景（北より）



箱作今池遺跡91－７区トレンチ全景（西より）

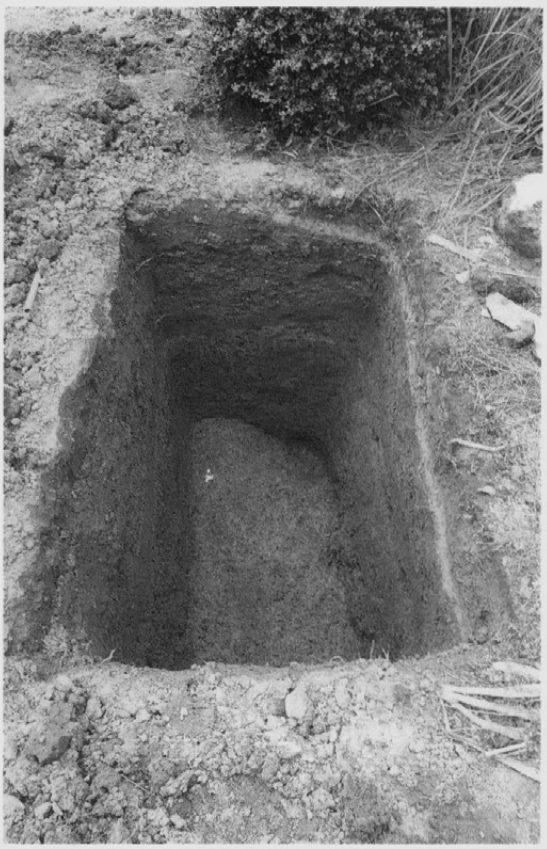


西鳥取遺跡92－２区トレンチ全景（西より）

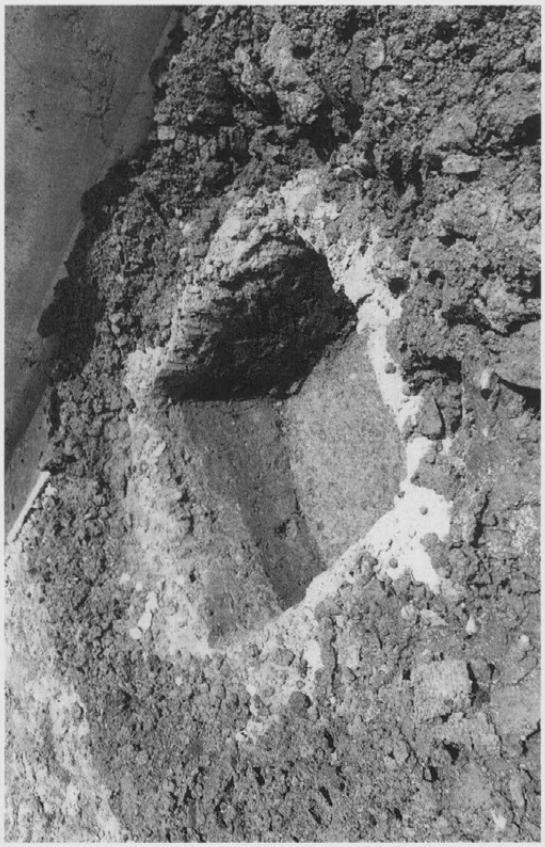


箱作今池遺跡91－８区　土坑１（北より）

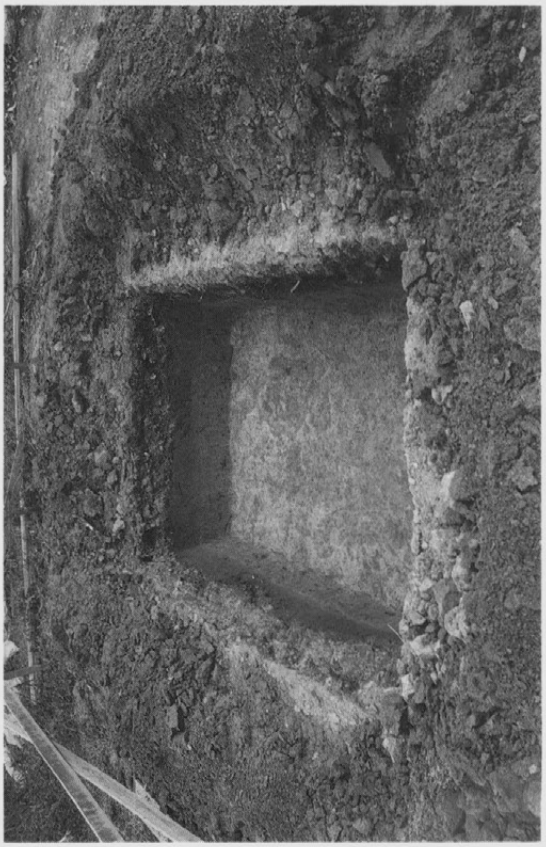
箱作今池遺跡92－１区１トレンチ全景(南より)



箱作今池遺跡92－４区トレンチ全景(南より)



箱作今池遺跡92－１区２トレンチ全景(南より)



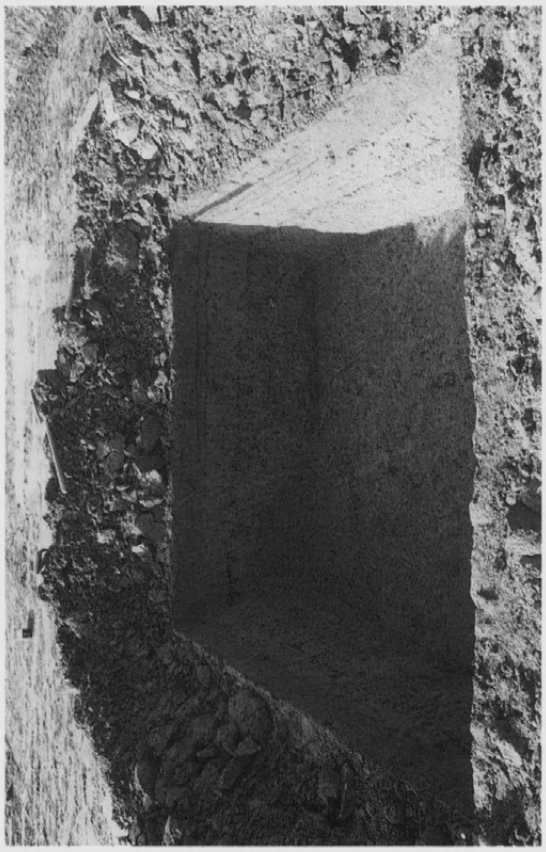
箱作今池遺跡92－６区トレンチ全景(南より)

箱作今池遺跡92－８区トレンチ全景(東より)

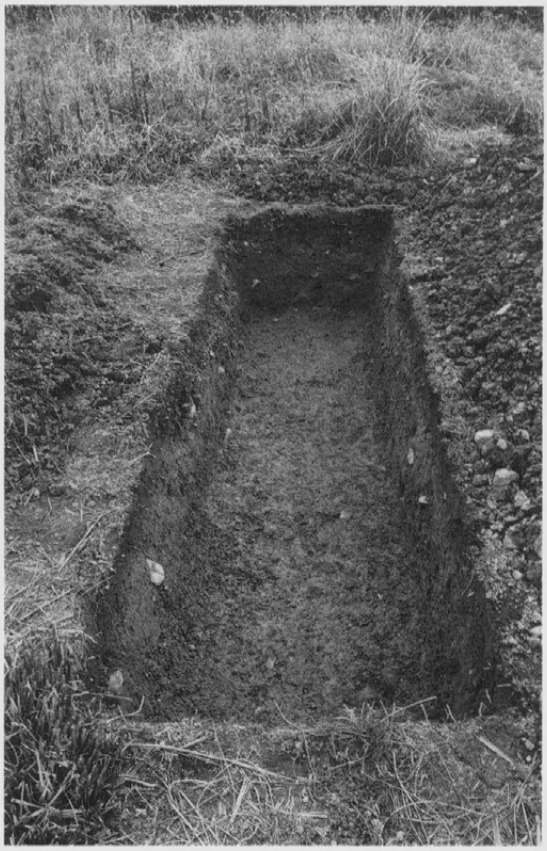
箱作今池遺跡92－９区トレンチ全景(南より)

箱作今池遺跡92－７区トレンチ全景(北より)

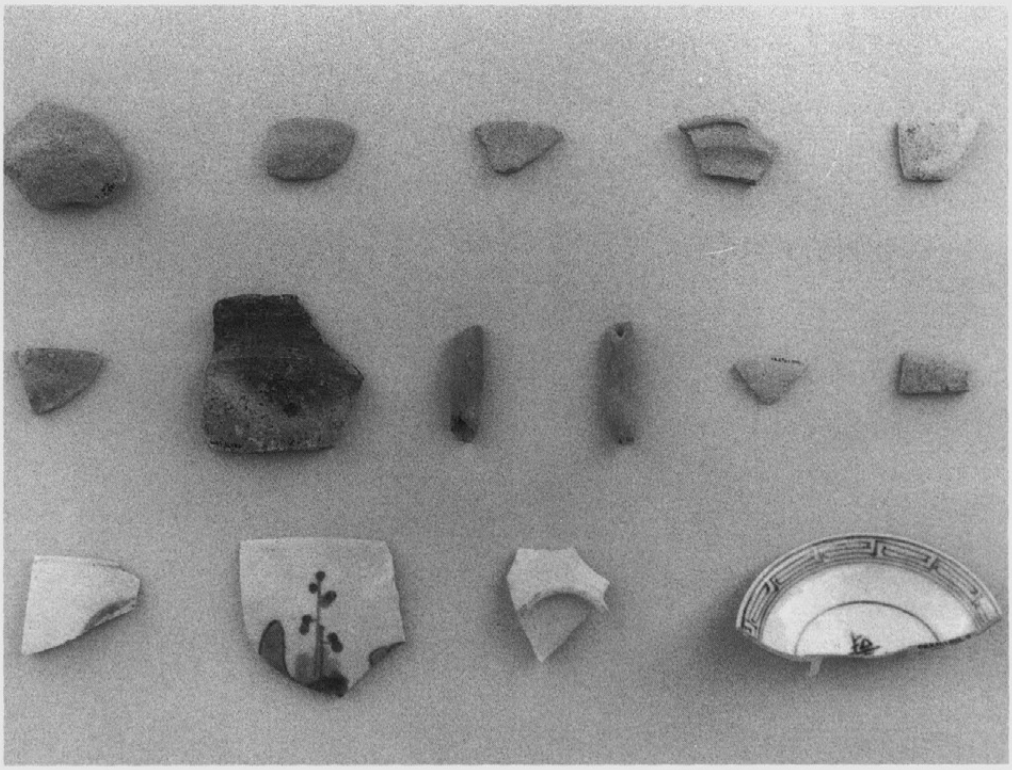
箱作今池遺跡92－10区トレンチ全景(北東より)



田山東遺跡91－１区トレンチ全景（東より）

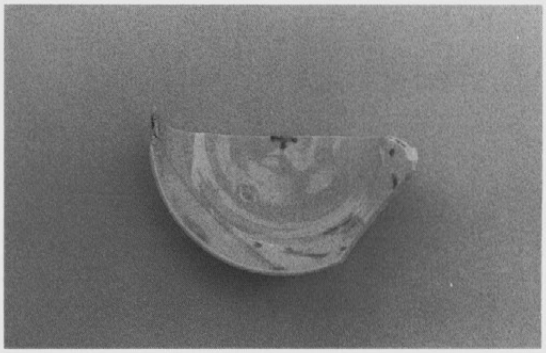


山中渓遺跡91－１区トレンチ全景（北より）

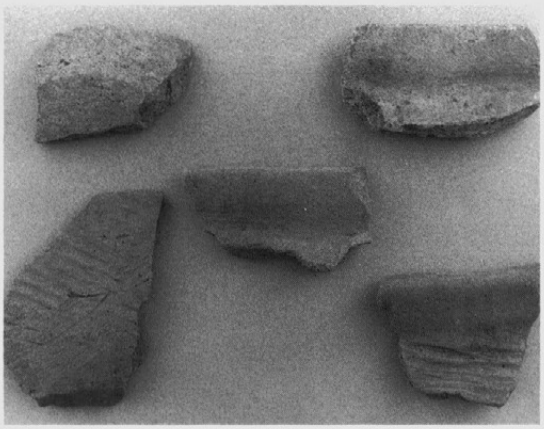


尾崎海岸遺跡92－１区出土遺物

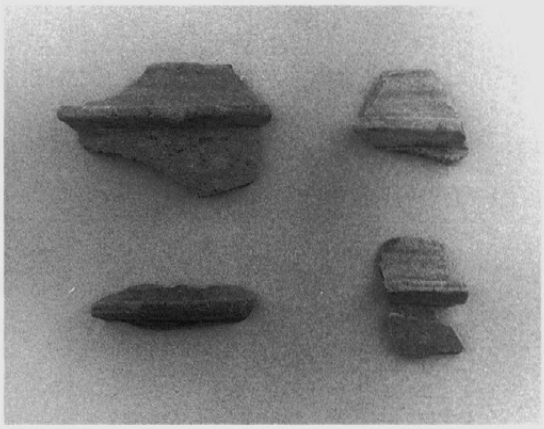
尾崎海岸遺跡92－１区出土遺物



尾崎海岸遺跡92－１区出土遺物

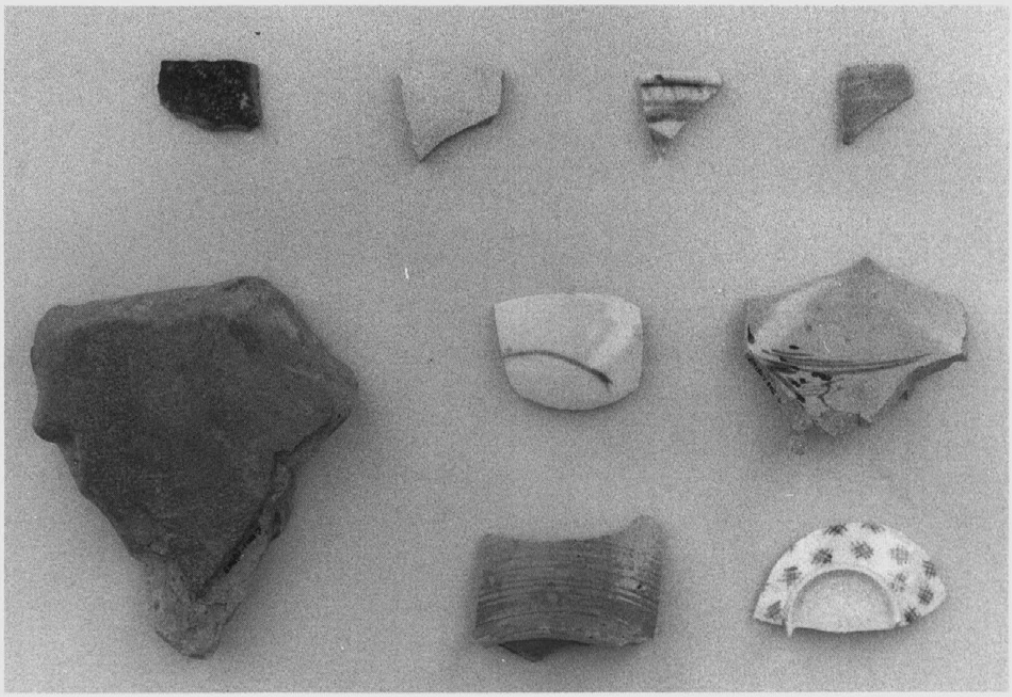


馬川遺跡92－１区出土遺物

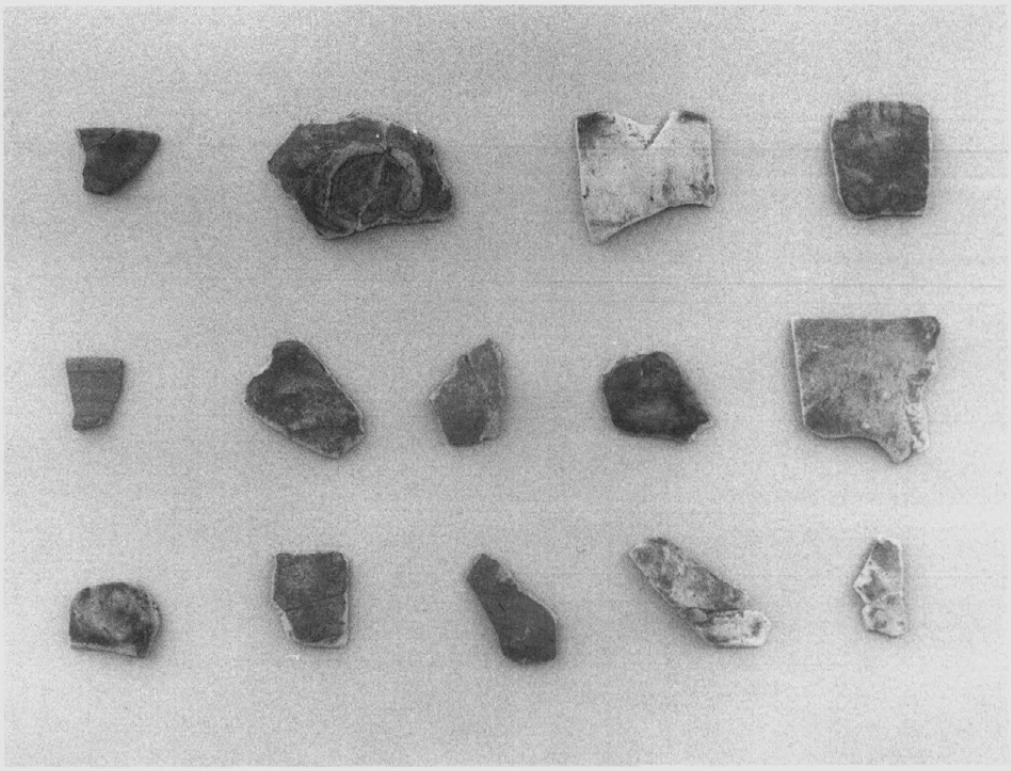


馬川遺跡92－１区出土遺物

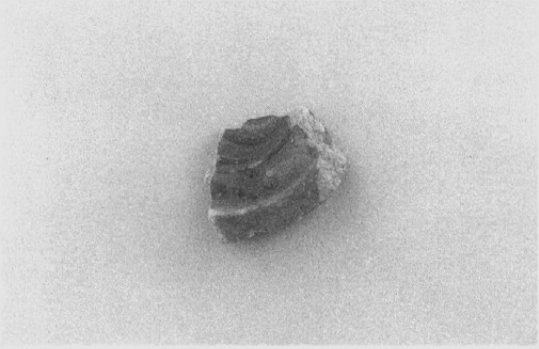
馬川遺跡92－１区出土遺物



下出遺跡92－1区出土遺物

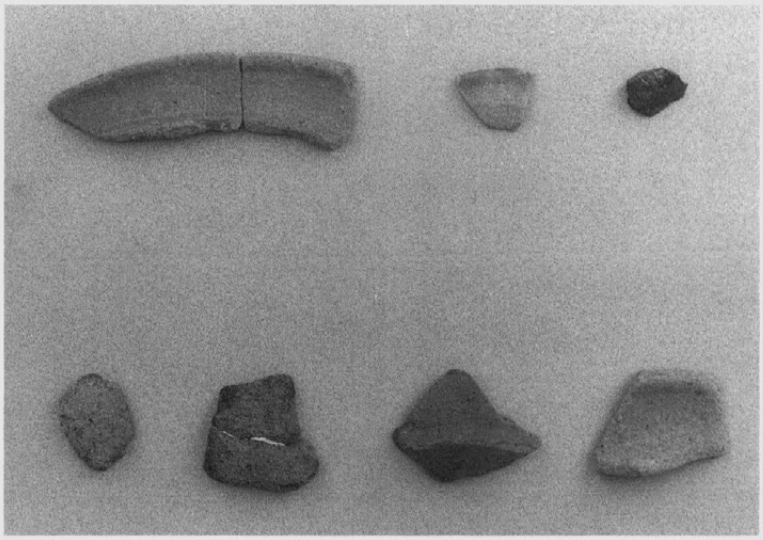


下出遺跡92－2区出土遺物

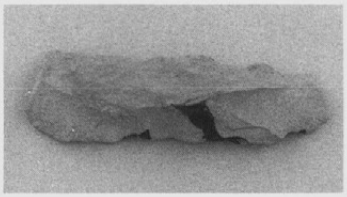


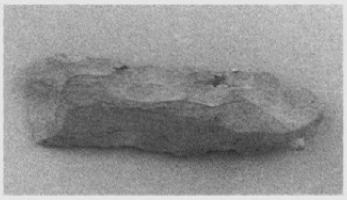
下出遺跡92－４区出土遺物

下出遺跡92－４区出土遺物

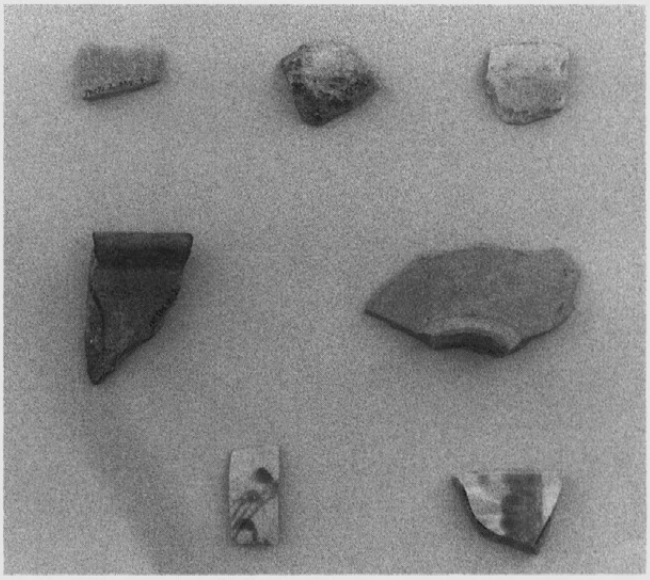


向出遺跡92－１区出土遺物

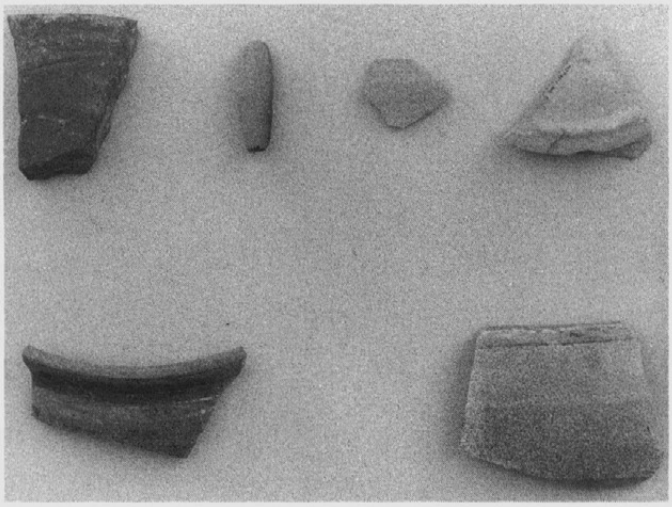




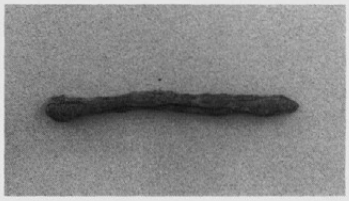
神光寺(蓮池)遺跡92－２区
出土遺物



神光寺(蓮池)遺跡92－２区出土遺物

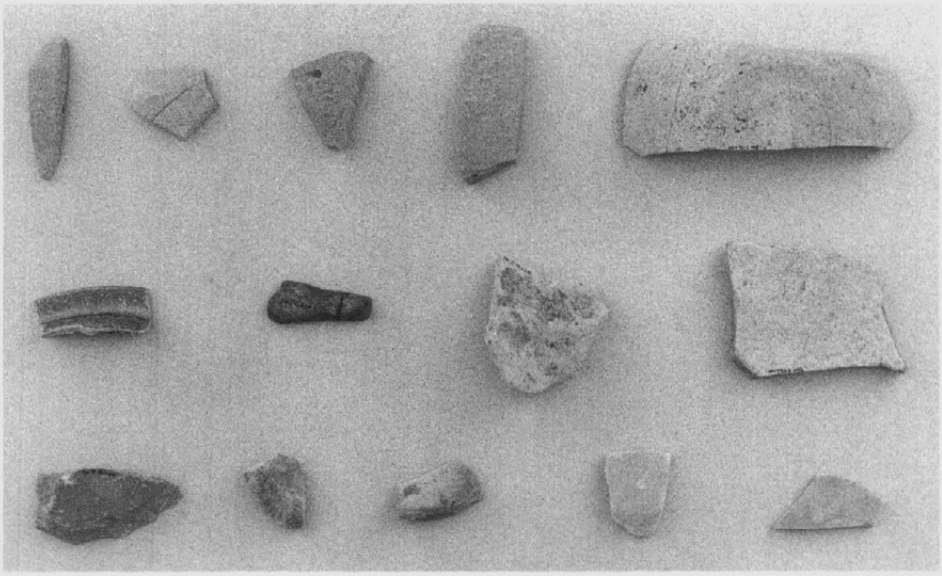


西鳥取遺跡92－１区出土遺物



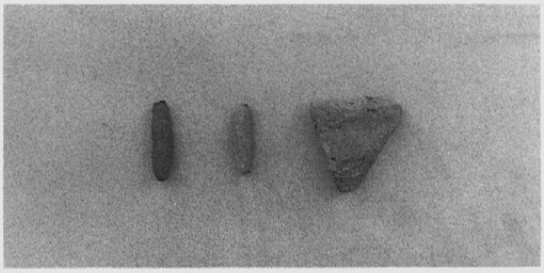
西鳥取遺跡92－１区出土遺物

西鳥取遺跡92－１区出土遺物

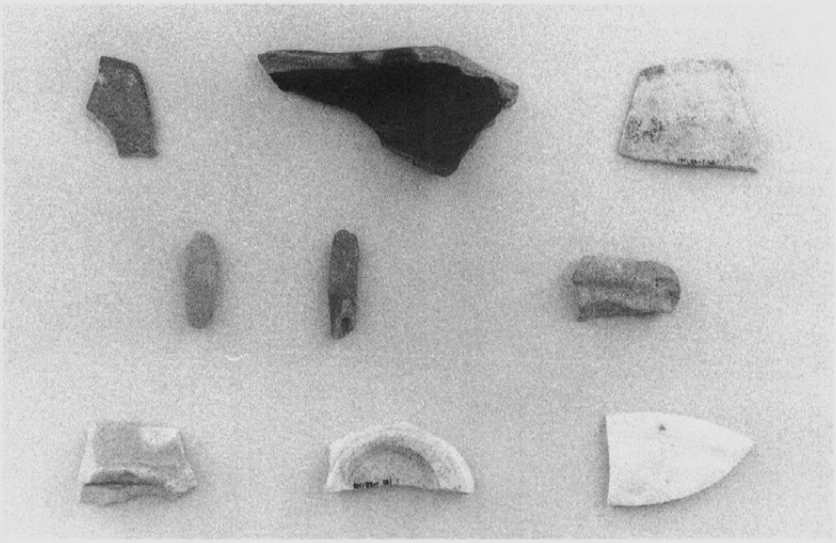


西鳥取遺跡92－２区出土遺物

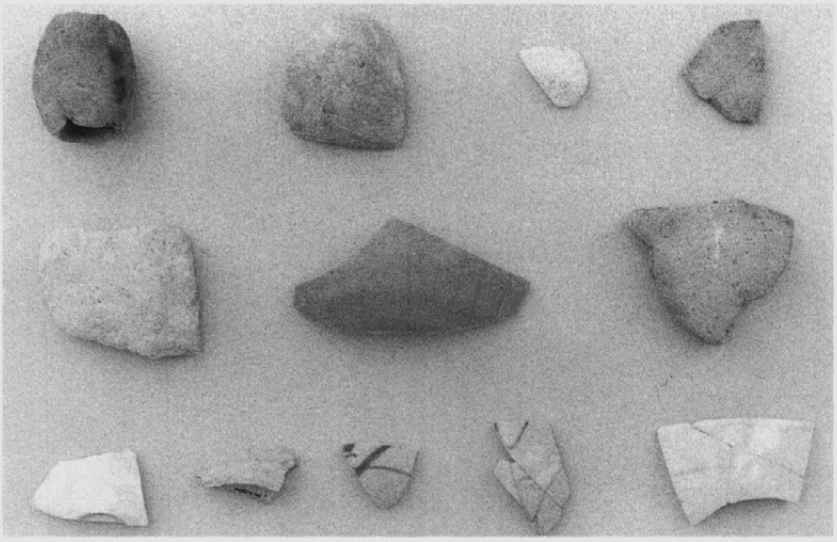
箱作今池遺跡91－８区出土遺物



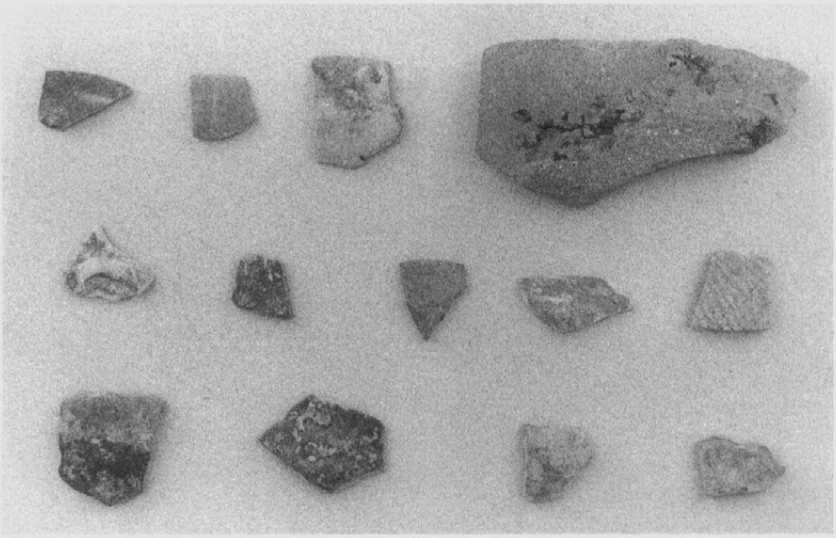
箱作今池遺跡92－６区出土遺物



箱作今池遺跡92－1区出土遺物



箱作今池遺跡92－4区出土遺物



田山東遺跡91－1区出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 XⅥ

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ

1993年3月

発　行：阪南市教育委員会社会教育課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54